

令和3年度
(2021年度)

東京都教育委員会
「学びの基盤」プロジェクト

研究報告書

東京都立南葛飾高等学校

研究報告書の発刊に寄せて

令和元年度の開始した「学びの基盤」プロジェクトは、新型コロナウイルス感染症のまん延により見直しが行われ、令和3年度から新たなスケジュールの下で取組が再開されました。このプロジェクトでは、「読解力」と「自ら学ぶ力」を伸ばすことを中心に、生徒一人一人の状況を把握し、よりよい授業を開発・実施することを目指しています。「読解力」向上は、社会生活を送る上での最低限必要となる読解力を高めることを目的とし、また「自ら学ぶ力」は、知識や技能をアップデートし続け、自己変革できる力を高めることを目的としています。

この二つの力を伸ばすために、それぞれワーキンググループを設けて研究開発を進め、令和3年度、本校では13名の委員の先生方を中心に、のべ11回の研究授業を行い、研究協議会を実施してきました。この冊子は、本校における令和3年度の活動を振り返り、それぞれのワーキンググループにおける取組を集約して、実践事例とともにその成果をまとめたものです。ここに1年目の研究成果をまとめることができたことは、大変に喜ばしく、プロジェクト委員の先生方をはじめ、プロジェクトにご協力いただいた多くの先生方に感謝いたします。

私は、「学びの基盤」プロジェクトの取組をとおして、本校に授業研究を推進する文化が定着しつつあると感じています。本校では、この学びの基盤プロジェクトによる授業研究と、若手教員育成研修や中堅教員資質向上研修による研究授業とを合わせて、多くの研究授業が行われています。また、授業後の研究協議会には多数の先生方が参加して、活発に授業実践に基づいた意見交換をしています。この授業をより良いものへと改善していく不断の努力こそが、社会の要請に応える次の時代の教育の在り方を模索する試みであると信じています。そして、自らより良きものを追究する先生方の姿こそが、生徒の心をはぐくみ、学力を向上させる原動力となるのではないのでしょうか。

令和4年度は、令和3年度の「読解力」と「自ら学ぶ力」のそれぞれのワーキンググループの成果を引継ぎ、これを一本化してプログラムの開発、検証を行う重要な年となります。この研究には、「読解力」や「自ら学ぶ力」をどのように測定するか、授業改善や指導法の工夫がそれぞれの力の育成にどう結びついているのかということはどう検証するかなど、まだまだ考えていかなければならない課題も多く残されています。

2年後の「学びの基盤」プロジェクトの完成を目指して、令和4年度の活動がより良いものとなりますよう、本冊子が少しでも役立つことを祈念しています。

東京都立南葛飾高等学校
学校長 伊達崎 広

目 次

I	東京都教育委員会「学びの基盤プロジェクト」の概要・・・・・・・・・・	1
II	令和3年度 of 取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
III	令和3年度 読解力WG の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
IV	令和3年度 自ら学ぶ力WG の実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
V	本校における令和3年度の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	62
VI	本校における「学びの基盤」プロジェクト 今後の課題・・・・・・・・・・	66

I 東京都教育委員会「学びの基盤プロジェクト」の概要

本研究では、AI が発展し大きく変わるであろう将来、今後社会に出ていく生徒たちに、「読解力」および「自ら学ぶ力」を向上させる教育プログラムの開発を目的としている。「読解力」および「自ら学ぶ力」をそれぞれ向上させるために、以下の仮説が設定されている。

1 「読解力」について

(1) 「読解力」についての仮説

学校の教育活動全体を通じて、インプット（情報を読み取る）とアウトプット（読み取った情報を基に表現《話す・書く》したり、共有《話し合う・伝え合う》したりする）を意図的に行うことで、情報を読み正しく理解することができるようになるとともに説明する必要がある内容を適切に表現することができるようになる。

(2) 具体的方策

- ア 各教科等の指導における意図的・計画的な言語活動の実施
- イ 全校で取り組む言語活動プログラムの開発
- ウ 校内研修の実施
- エ 研究授業の実施

(3) 実態調査

第1学年生徒を対象として、以下の調査を行う。

- ア 日本語検定（6月と10月の2回実施）
- イ 論理言語力検定（Literas）（年1回実施）
- ウ 課題作文（年2回実施）
- エ 読解力背景調査（年1回実施）

2 「自ら学ぶ力」について

(1) 「自ら学ぶ力」についての仮説

受容的な学習環境の中で、各教科・科目等の本質を踏まえた問いや課題を解決する学習活動を行うとともに、自らの学びを振り返る活動を行うことで、必要な知識や技能を自己調整しながら身に付けて課題を解決するなど、自ら主体的に学ぶことができるようになる。

(2) 具体的方策

- ア 自ら学ぶ力を育む授業づくり
 - ①生徒が発言しやすい授業
 - ②生徒がもっと知りたいと思う授業
 - ③生徒が見通しをもって学ぶ授業
 - ④生徒が自己調整しながら目標に到達する授業
 - ⑤生徒が目標をもって学び、振り返って目標を更新する授業

⑥生徒が達成感や成功体験をもてる授業

- イ 各教科等の指導における教科・科目の本質に迫る「問い」の設定
- ウ 校内研修の実施
- エ 研究授業の実施

(3) 実態調査

第1学年生徒を対象として、4月又は5月と12月の2回、自己肯定感や学習習慣に関するアンケート調査を行う。

本研究は令和元年度から開始され、本校では研究授業や研究協議会を通して、「読解力」および「自ら学ぶ力」の向上のための教育プログラム開発を行ってきた。令和元年度・令和2年度の研究内容および研究成果については、「令和元年度・令和2年度（2019・2020年度）東京都教育委員会 「学びの基盤」プロジェクト 研究報告」にまとめている。

II 令和3年度の取組

1 本校の校内委員会体制

令和3年度は、令和元年度・令和2年度の研究成果をもとに、校内にて「学びの基盤プロジェクト推進委員会」を立ち上げ、校内委員による研究授業および研究協議会を複数回行った。

1 学期

- ・第1回 学びの基盤プロジェクト推進委員会 令和3年5月17日（月）
今年度の実施計画の説明および協議
- ・学びの基盤プロジェクト 全体説明会 令和3年5月21日（金）
学校全体の教員への概要周知
- ・第2回 学びの基盤プロジェクト推進委員会 令和3年6月 7日（月）
研究授業の担当決め

研究授業	令和3年6月21日（月）
	令和3年6月22日（火）
	令和3年6月24日（木）
研究協議会 1回目	令和3年7月 1日（木）

- ・第3回 学びの基盤プロジェクト推進委員会 令和3年7月19日（月）
第1回研究協議会の各WGのまとめ

2 学期

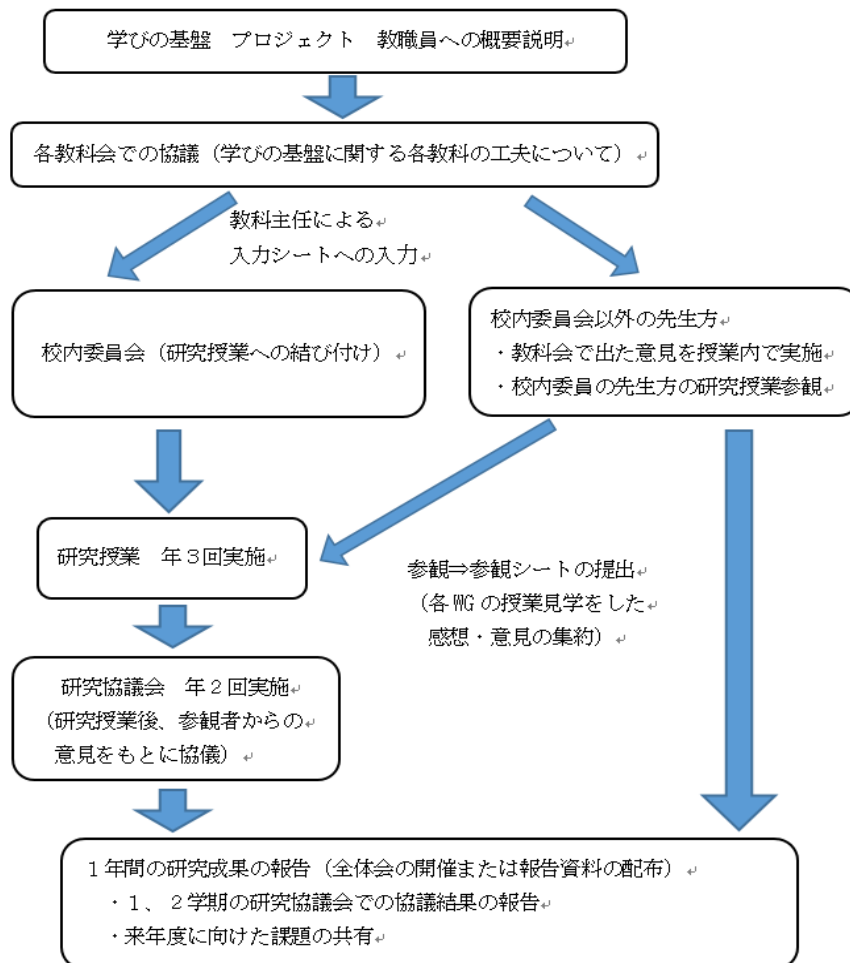
- ・第 4 回 学びの基盤プロジェクト推進委員会 令和 3 年 9 月 1 7 日 (金)
各 WG における 2 学期の方針についての確認

研究授業	令和 3 年 1 0 月 5 日 (火)
	令和 3 年 1 0 月 1 1 日 (月)
研究協議会 2 回目	令和 3 年 1 0 月 1 3 日 (水)
	令和 3 年 1 0 月 1 4 日 (木)

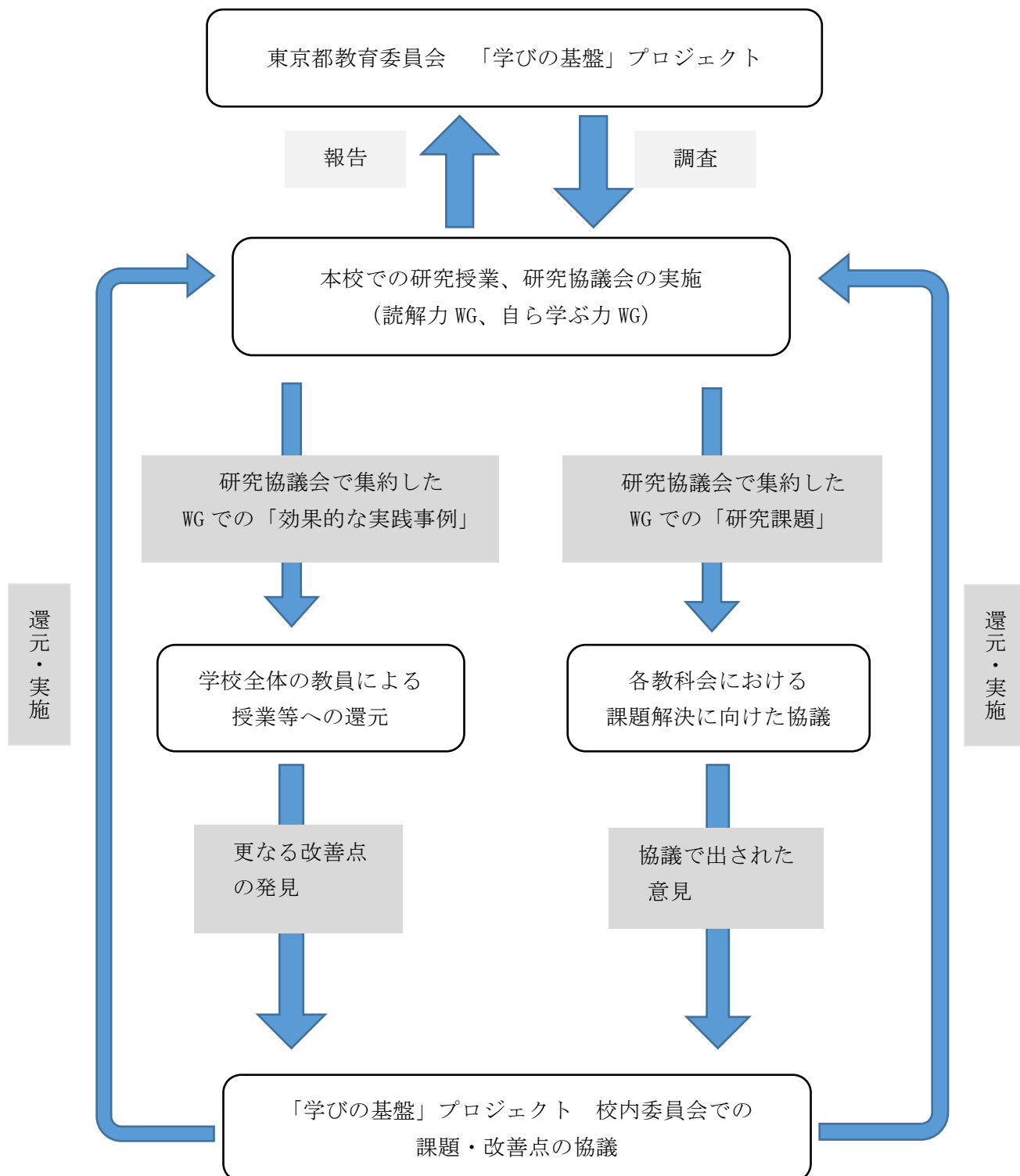
- ・第 5 回 学びの基盤プロジェクト推進委員会 令和 3 年 1 1 月 5 日 (金)
第 2 回研究協議会の各 WG のまとめ

研究授業	令和 3 年 1 1 月 2 5 日 (木)
	令和 3 年 1 1 月 2 9 日 (月)
研究協議会 3 回目	令和 3 年 1 2 月 2 日 (木)

<本校での「学びの基盤」プロジェクト 校内体制図 (チャート) >



<本校での「学びの基盤」プロジェクトにおける東京都教育委員会との連携図（チャート）>



III 令和3年度 読解力WGの実践事例

1 実践事例①

国語科「現代文B」学習指導案

(1) 単元名、使用教材

近代の小説を読み登場人物の心情を読み味わう。

(2) 単元の目標

ア 文章内での言葉の働きや語句を的確に理解し、人物像や心情を捉えることができる。

(知識及び技能)

イ 作品の文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え内容を解釈している。

(思考力・判断力・表現力)

ウ 他者との関わりの中で、自らの思いや考えを広げたり深めたりすることができる。

(学びに向かう力、人間性等)

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①小説内における時間の経過や心情の経緯について理解を深め、表現を味わうことができる。	①ものの見方や考え方を的確に捉え、文章を理解している。 ②自身の考えを言語化し、他者に伝えている。	①他者の意見に耳を傾け、積極的に自分の考えを述べている。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全10時間)

時	主な学習内容・学習活動	評価規準 (評価法)
	(単元全体の問) 李徴の生き方・考え方から還元できるものは何か。	
第1時	(本時の問い) あらすじを把握し、語句を理解する。 《目標》『山月記』の難解な語句について理解する。 ○家庭学習日を利用し、語句調べを行い、文章を読解する上での基礎知識を定着させる。	○作者や作品の背景について理解する。 ア①【行動の観察】

第2時	(本時の問い)【第一段落】 「李徴」の人物像はどのようなものか。	
	<p>《目標》中島敦の表現方法と「李徴」の人物像について考える。</p> <p>☆李徴の信条や、人物像を考え、作者の表現方法を学び、親しみを持つ。</p> <p>・【第一段落】の要約をクラッシーにて提出。</p>	<p>○第一段落までの流れを確認し、内容を読み味わっている。イ②【行動の観察(発言)】【記述の点検(ノート)】</p> <p>○主人公の人物像を個々の言葉で説明する。</p> <p>○発狂までの過程を順を追って整理する。ア①【記述の点検(ノート)】</p>
第3時	(本時の問い)【第二段落】「李徴」と「袁慚」の関係性はどのようなものか。	
	<p>《目標》表現に即して、内容を理解する。</p> <p>☆性格と関係性が分かる部分を抜き出し、「李徴」と「袁慚」について考える。</p> <p>・袁慚がこの場面で果たす役割を考える。</p> <p>☆要点を押さえ、自身の言葉で要約活動を行い、クラッシーにて提出。</p>	<p>○登場人物の背景を理解し、読みを深めている。イ①②【記述の確認(ワークシート)】</p> <p>○文章を読み、登場人物の心情、性格を読み取っている。ウ①【記述の確認(ワークシート)】</p>
第4時 (本時)	(本時の問い)【第三段落】「李徴」の言葉から分かる心情はどのようなものか。	
	<p>《目標》「李徴」の嘆きを理解する。</p> <p>☆提出された内容を共有し、他者の視点に気付かせる。</p> <p>・あらすじを確認する。</p> <p>・第三段落の内容を的確に理解する。</p> <p>・「李徴」の心情について、ある程度まとまった文章を書く</p>	<p>○自分の言葉でまとめることができ、内容の読みを深めている。イ①②【記述の確認(クラッシー)】</p>
第5時	(本時の問い)【第四段落】「李徴」の詩に対する思いはどのようなものか。	
	<p>《目標》「李徴」の心情を文章に沿って捉える。</p> <p>☆「袁慚」に対する「李徴」の依頼をまとめ心情を捉える。</p> <p>・【第四段落】までの感想をクラッシーに記入し提出する。→次時にて全体共有をする。</p>	<p>○登場人物の背景を理解し、読みを深めている。イ①②【記述の確認(クラッシー)】</p>
第6時	(本時の問い)【第五段落】虎になった理由を「李徴」はどのように捉えているか。	
	<p>《目標》「李徴」の心情を文章に沿って捉える。</p> <p>☆全体の流れを踏まえ「李徴」の心情を捉え、わかりやすい言葉で説明する。</p> <p>・【第五段落】の感想をクラッシーに記入し提出する。→次時にて全体共有をする。</p>	<p>○文章を読み、登場人物の心情、性格を読み取ろうとしている。ア①【記述の分析(クラッシー)】</p>

第7時	(本時の問い)【第六段落】「李徴」の妻子への思いはどのようなものか。	
	《目標》考えを言葉にして読みを深める。 ☆李徴が虎になった理由を考えさせ、自身の言葉でまとめる。	○文章を読み、登場人物の心情、性格を読み取ろうとしている。ア①【記述の分析】
第8時	(本時の問い)【第七段落】作品の主題を考える。	
	《目標》考えを言葉にして読みを深める。 ☆作品の終わりから受ける印象について考える。 ・主人公の問題を自己の問題としてどのように捉えられるかまとめる。	○文章を読み、登場人物の心情、性格を読み取ろうとしている。ア①【記述の分析】
第9時	(本時の問い)内容を、自分なりに解釈し、相手に伝える。	
	《目標》考えを言葉にして読みを深める。 ☆レポート作成を行い読みの交流を行う。 ・400字程度のミニレポートを作成する。 ・①「登場人物」について②作品「主題」について③作者の「表現」について④「解釈」について⑤「たれば」「もしも」について	○文章を読み、登場人物の心情、性格を読み取ろうとしている。ア①【記述の分析】
第10時	(本時の問い)内容を、自分なりに解釈し、相手に伝える。	
	《目標》考えを言葉にして読みを深める。 ☆レポート作成を行い読みの交流を行う。 ・個人で文章を作り、各班に分かれて共有を行う。	○文章を読み、登場人物の心情、性格を読み取ろうとしている。ア①【記述の分析】

(5) 本時 (全10時間中の5時間目)

ア 本時の目標

李徴の嘆きを理解する。

イ 本時の展開

時間	・学習活動 ○学習内容	・指導上の留意点・配慮事項 ☆「読解力」を高める指導の工夫	評価規準 (評価方法)
導入 5分	・本時の流れと目標の提示	☆目標を毎時提示し、見通しをもたせる。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 目標：「李徴」の嘆きを理解する。 </div>		

<p>展開 3 5 分</p>	<p>☆個：クラッシー（クラウド上で提出済）の内容を共有する。（5分）</p> <p>・個：⑦プリント復習部分を解く。（5分）</p> <p>☆GW活動</p> <p>①：復習内容を共有する。 →発表しクラスで共有する。</p> <p>②：第三段落の漢字の読み方に注意しながら音読する。</p> <p>③：李徴が虎になるまでの過程を理解する。</p> <p>④：李徴の心情について考え、班としての意見をまとめ、発表する。</p> <p>⑤：演習プリント⑤⑥に取り組み学び合いを行う。</p> <p>⑥：第三段落の感想をクラッシーに300字程度で記入し提出する。</p>	<p>・「なるほど」「おもしろ」ポイントにラインを引かせ他者の視点に気付く。</p> <p>・第二段落で語られた発狂の過程について順を追って理解させる。</p> <p>☆終了した班からマグネットを移動させ、進捗状況を可視化する。（①～⑥）</p> <p>・在京生のいる班には適宜声掛けを行う。</p> <p>・全班が④まで終わったことを確認したのち、共有を行う。</p>	<p>○文章を読み、登場人物の心情、性格を読み取ろうとしている。ア①</p> <p>【記述の分析】</p>
<p>まとめ 5 分</p>	<p>○次時に行う発表と次時の振り返り活動（クラッシー）についての説明。</p>		<p>ア①【記述の分析】</p>

（6）本時の振り返り

『山月記』という難解な文章をいかに楽しく、意欲的に読ませるかに重点を置いた授業展開を心掛けた。また1時間の中でインプット（他者の意見・音読）アウトプット（自分の意見の発信・音読等）の両立を意識し、何もしていない時間が生徒の中でできないよう授業を組み立てた。

宿題または振り返りとして、「授業前の初読の感想」「授業後の振り返りの感想」「文章から自分の中で生かせること」「○段落の要約」等、200～300字程度の文章を定期的に提出させ、内容定着度を図った。ほとんどの生徒が、内容の趣旨を理解していたが「要約力」については成長の余地がある。また、在京外国人生徒への支援としてグループワークを取り入れ、音読や意味等の確認を生徒同士で行わせることで日本語のコミュニケーションを授業内で取れる環境を作った。

課題として、「文章力」「要約力」が挙げられる。話し言葉で書かれたものや、句読点の区切りがないもの等様々見受けられる。進路活動に向けた文章力と、論理的に意見を述べる練習を授業内で行っていきたい。1年生から、3年間を通して文章を打たせる振り返りをした結果、意見感想を述べるハードルが下がり、考えを言葉にする習慣が身についたように感じる。

第三段落の感想を提出

目標

①	李徴の嘆きを理解する。
②	李徴の人生観を捉える。

第三段落

行目、 頁

行目、 頁

行目、 頁

○ 虎への過程

誰かが [] を呼んでいる。

で駆けていくつうに []

自分は [] としたが、そうして []

しかし []

自分の中の [] はたちまち姿を消した。

自分の前を一匹のうさぎが駆け過ぎるのを見た途端

「どうして虎をどなったか。」

「どうして以前、人間だったのか。」

「それでも人間でも、もとは何か他のものだっただろう。」

仏教的な [] の思想に基づいた考え方。

「李徴」のいう「しあわせ」と「おそれ」をまとめよう。

をどう捉えるかという作者 [] の問い。

この気持ちには誰にもわからない。誰にもわからない。

と [] の相克に苦しむ李徴の姿

↓ へ変化

↓ 地を踏んで走っていた。

↓ 李徴のどのような心情が読み取れるか

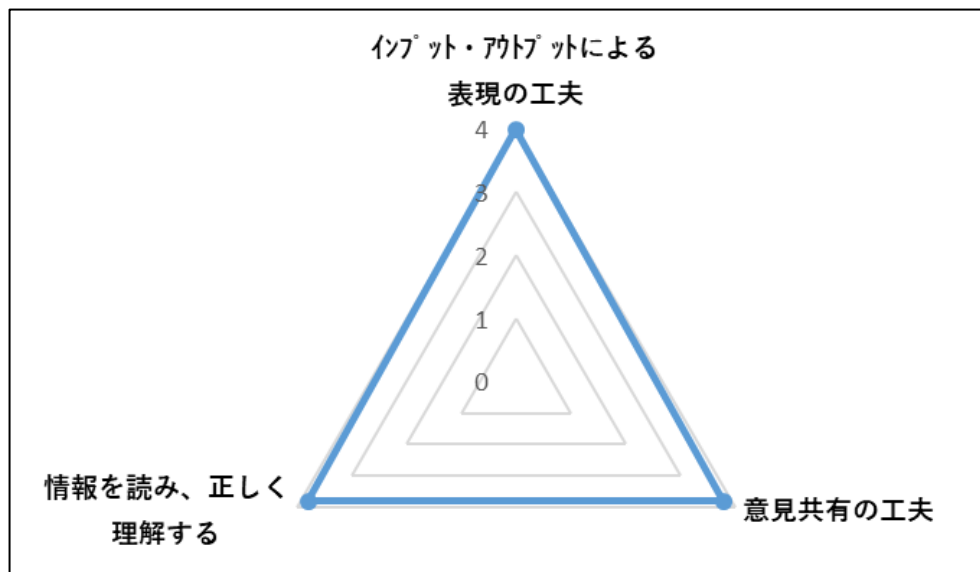
↓ この変化は何を示しているか。

○ 第三段落

感想

変化

〔資料1〕 授業で使用したプリント



〔資料2〕 参観者シートの集計結果

2 実践事例②

国語科「国語総合」学習指導案

(1) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 古典の随筆作品を読み、登場人物や筆者の心情を読み味わう。
- イ 「説話と随筆」『徒然草』（序段・第52段）

(2) 単元の目標

- ア 文章の内容や古典特有の表現の特色に注意して、読み味わうことができる。
- イ 表現に即して、作品の文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え内容を解釈している。
- ウ 古典作品に親しみを持ち、古典特有の表現を理解しようとする。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 文章内における歴史的背景を理解している。 ② 文章から自身のものの考え方見方を広げる。	① 作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深める。	① 古典作品に親しみを持ち、古典特有の表現やリズム感について理解しようとする。

(4) 「読解力」を高めるための本単元および本時の工夫について

物語の状況を文章に沿って読み取るとともに、登場人物である「仁和寺にある法師」の心情を場面ごとに読み取ること重点を置いて指導する。古典作品の文章は短く簡潔にまとめられているが、時間経過を感じさせ、「仁和寺にある法師」の心情を理解させることで、古典作品を身近なものと感じさせ、主体的に文章を読む態度を育て、「読解力」の向上を目指したい。本時は、「仁和寺にある法師」の石清水八幡宮を参詣することに対する思いの強さを理解させ、次時以降の文章を読解する素地を作りたい。

(5) 単元の指導計画と評価計画（全5時間）

時	目標	主な学習内容・学習活動	評価規準（評価法）
第1時	兼好法師はなぜ『徒然草』を書いたのか？ 序段の文章の読みを確認し、『徒然草』を書いた兼好法師の心情を理解する。	○古典の文章を正しく音読する。 ○兼好法師が『徒然草』を書いた理由を理解する。	ア①（記述の点検） ウ①（行動の観察）

第2時	どんな人物や場所が出てくるか？		
	第52段の文章の読みと本文の背景を確認し、理解する。	○古典の文章を正しく音読する。 ○登場人物と場所を知り、状況を理解する。	ア①（記述の点検） ウ①（行動の観察）
第3時	「仁和寺にある法師」はなぜ石清水八幡宮を参詣したいと思ひ、実際はどんな行動をしたか？		
(本時)	「仁和寺にある法師」の心情を文章に沿って捉える。	○「仁和寺にある法師」の石清水八幡宮に対する思いを理解する。 ○「仁和寺にある法師」の実際の行動を知る。	ア①（記述の点検） イ①（記述の確認）
第4時	「仁和寺にある法師」が山の上まで行かないことにしたのはなぜか？		
	「仁和寺にある法師」の心情を文章に沿って捉える。	○「仁和寺にある法師」が山の上まで行かないことにした心情を理解する。	イ①（記述の確認）
第5時	「仁和寺にある法師」はなぜ失敗したのか？		
	兼好法師の考えを文章に沿って捉える。	○「仁和寺にある法師」の失敗に対する兼好法師の考えを理解する。 ○「仁和寺にある法師」の失敗に対する自分の考えを持つ。	ア②（記述の分析）

(6) 本時（全5時間中の3時間目）

ア 本時の目標

「仁和寺にある法師」の石清水八幡宮への参詣に対する思いを理解する。

イ 本時の展開

時間	・学習活動 ○学習内容	・指導上の留意点・配慮事項 ☆「読解力」を高める指導の工夫	評価規準（評価方法）
導入 5分	・前時の復習 ・本時の目標の確認	☆目標を毎時提示し、見通しを持たせる。	
	「仁和寺にある法師」の石清水八幡宮への参詣に対する思いを理解する。		
展開 30分	○最初の文を読み、状況を整理する。	☆本文と現代語訳を対応させて整理させる。	ア①（記述の点検）
	「仁和寺にある法師」にとっての石清水八幡宮のように、いつかやってみたいことを考える。		
	・いつかやってみたいことを考えて書く。 ・グループ内で共有する。 ・全体で共有する。	・自身で取り組む時間を設ける。 ☆自分の思いを話したりグループの生徒の思いを聞いたりすることで、「仁和寺にある法師」の思いの強さを感じさせる。	イ①（記述の確認）

まとめ 1 0 分	「仁和寺にある法師」の実際の行動を確認する。		
	○次時に向けて、「仁和寺にある法師」の実際の行動とその時の心情を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「かばかり」の内容を視覚的に理解させる。 ・「仁和寺にある法師」の思いと実際の行動との差に気づかせる。 	ア①（記述の点検）

(7) 本時の振り返り

ア 研究授業の振り返り

①意見を書いたり共有したりする活動は1学期から行っており、意見共有までに要する時間は短くなってきており、またすべての生徒が書いたことをもとに自分の意見を話すことができた。しかし、該当クラスの生徒の中には、自分の意見を日本語で話し合うことが難しい生徒もおり、生徒同士で話し合いができるようになっていないことが本授業でも課題として残った。(話すこと)

②すべての生徒が自分の意見を話すことができたが、他の生徒の意見を聞いて理解したり、聞き取って書いたりすることができない生徒もいた。日本語を母語としない生徒の話し合い活動では、聞くことにより難しさがあり、さらなる工夫が必要だと考える。(聞くこと)

③すべての生徒が授業内で自分の「いつかやってみたいこと」とその理由を書き、文法的な誤りを指導することができた。その成果はイ①の回答に見られ、正しい日本語でのコミュニケーション能力の向上を図れたと考える。(書くこと)

④日本語を母語とする生徒対象の授業では扱わない内容(例:「仁和寺にある法師」の「ある」についての説明)を扱うことで、日本語を母語としない生徒に特有の理解しにくいポイントをおさえ、生徒が文章を正しく理解できるようにできたと思う。(読むこと)

イ 生徒の反応 (Teams の課題による生徒の回答と考察)

①「仁和寺にある法師」にとっての石清水八幡宮のように、あなたがいつかやってみたいことは何ですか？(原文ママ、全生徒の回答)

- ・日本の山を登りたいです。
- ・長城に行ってみたい。
- ・北京に行ってみたいです。
- ・9年後に自分のお店を作りたい
- ・パリに行きたい おばあちゃんの夢だからパリに行きたい
- ・エレクトリック・ギターを弾けるようになりたいです。ウクレレとギターは少しだけ弾けるのですが、エレキギターは習ったことがありません。最近では、エレキギターを使った曲やそのカバーがとても好きで、聴いていてカッコいいと思うので、いつか習ってみたいと思っています。
- ・他の国に旅行します

《考察》授業中の指導を経て、プリントを見ないでスマートフォンで回答しても、ほとんどの生徒が文法的な誤りなく回答することができるようになった。

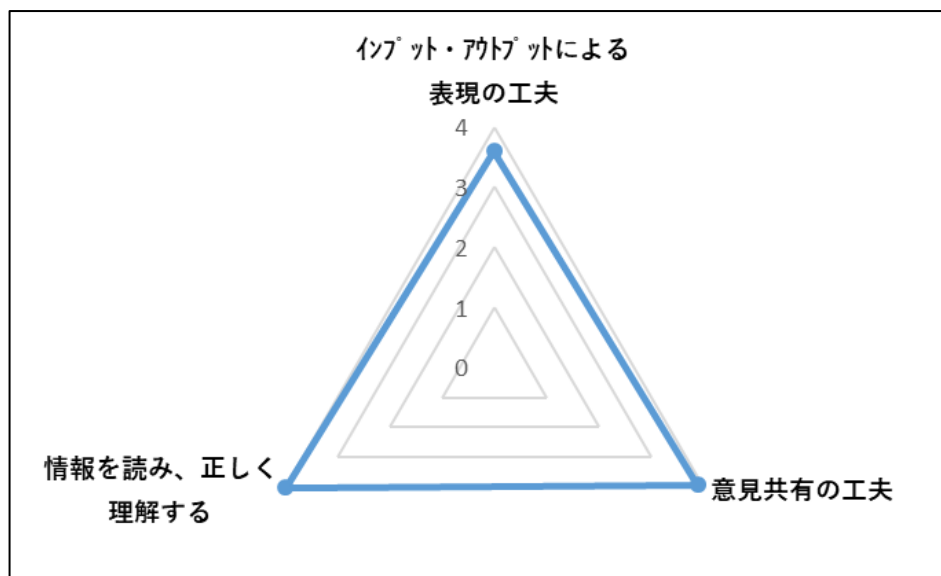
② 今日の授業で思ったこと、考えたことを書いてください。(原文ママ、抜粋)

- ・日本語を勉強することが必要です
- ・一学期よりむずがしくなった。
- ・難しけど、面白いとお見ました
- ・自分のやりたいことをやるのは努力が必要だ。
- ・古い言葉のニュアンスが解釈に大きな影響を与えることを実感しました。知識を学ぶことの必要性を実感した、とても有意義な授業でした。また、例え話があることで、より理解しやすくなったのも良かったです。活動をしていて楽しかったし、他の人がいつもやりたいことや行きたいところを聞くのも面白かったです。

《考察》日本語での表現やコミュニケーションに対して、難しさとともに、おもしろさを感じている。



〔写真〕 授業中の風景



〔資料〕 参観者シートの集計結果

3 実践事例③

数学科「数学Ⅰ」学習指導案

(1) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

ア 単元名 第3章 二次関数 第2節 二次方程式と二次不等式

イ 使用教材 教科書：「最新数学Ⅰ」（数研出版）

副教材：「パラレルノート数学Ⅰ」（数研出版）

(2) 単元の目標

ア 知識及び技能

二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

イ 思考力、判断力、表現力等

関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。

ウ 学びに向かう力、人間性等

数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解している。 ②二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。	①二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	①事象を二次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ②問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

(4) 「読解力」を高めるための本単元および本時の工夫について

生徒が教科書を正確に読むことができることを目指している。そのため、教科書の記述を自分の言葉で説明する活動を重視している。また、問題を図やグラフで表すことで、生徒が問題の意味を正確に把握する取組を行う。生徒自身が読解力の向上を実感できるよう、小テストや個人内評価を工夫した。

(5) 単元の指導計画と評価計画（全5時間）

時	目標	主な学習内容・学習活動	評価規準（評価法）
第1時	（本時の問い） x 軸上の点の y 座標を考えて立式しよう。		
	二次関数のグラフと x 軸の共有点の座標の求め方を理解する。	二次関数のグラフの式に $y=0$ を代入してできた二次方程式の解が、共有点の x 座標であることを理解する。	ウー①（ノートの記述内容）
第2時	（本時の問い）グラフと x 軸の位置関係を整理しよう。		
	二次関数のグラフと x 軸の共有点の座標を求める。	$y=0$ とした二次方程式を解くことで、グラフと x 軸の共有点の座標を求める。	アー①（小テスト）
第3時 （本時）	（本時の問い）二次不等式の解き方を説明しよう。		
	二次関数のグラフと x 軸の位置関係から二次不等式の解を考察し、他者に説明することができる。 （ x 軸と2点共有）	グラフと x 軸の位置関係から、二次不等式の解を考察する。解を x 軸上に図示し、式で表す。（ x 軸と2点共有）	イー①（ノートの記述内容） ウー②（振り返りシート）
第4時	（本時の問い）グラフが x 軸と接する場合の二次不等式の解を考えよう。		
	二次関数のグラフと x 軸の位置関係から二次不等式の解を求める。 （ x 軸と接する）	グラフと x 軸の位置関係から、二次不等式の解を考察し、 x 軸上に図示し、解を求める。 （ x 軸と接する）	イー①（ノートの記述内容） ウー②（振り返りシート）
第5時	（本時の問い）グラフが x 軸と共有点をもたない場合の二次不等式の解を考えよう。		
	二次関数のグラフと x 軸の位置関係から二次不等式の解を求める。 （ x 軸と共有点なし）	グラフと x 軸の位置関係から、二次不等式の解を考察し、 x 軸上に図示し、解を求める。 （ x 軸と共有点なし）	アー②（小テスト） イー①（ノートの記述内容）

単元のルーブリック

	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C)
知識・技能	二次不等式の問題を解く際、グラフをかいて求めることができる。また、他者に説明することができる。	二次不等式の問題を解く際、グラフをかいて求めることができる。	二次不等式の問題を解く際、グラフをかいて求めることを理解している。
思考・判断・表現	二次不等式の解法を整理し、自分の言葉で文章にまとめ、教科書の記述を補う説明ができる。	二次不等式の解法を整理し、自分の言葉で文章にまとめることができる。	二次不等式の解法を整理し、教科書の記述を引用して文章にまとめることができる。
主体的に学習に取り組む態度	自らの学習状況を把握し、今後学ぶべきことを見出し、学習の進め方を調整しようとしている。	自らの学習状況を把握し、学習の進め方を調整しようとしている。	自らの学習状況を把握している。

(6) 本時 (全5時間中の3時間目)

ア 本時の目標

二次関数のグラフと x 軸の位置関係から二次不等式の解を考察し、他者に説明することができる。

イ 本時の展開

時間	・学習活動 ○学習内容	・指導上の留意点・配慮事項 ☆「読解力」を高める指導の工夫	評価規準 (評価方法)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習 ○二次関数のグラフと x 軸の共有点の x 座標の求め方を復習する。 ・教科書 p42 を読む。 ○「不等式を解く」とはどのようなことかを確認する (既習事項の確認)。 ○一次関数 $y = 2x - 4$ について、$x = -2, -1, 0, 1, 2$ における y の値を求め、$2x - 4 > 0$, $2x - 4 < 0$ の解を、グラフを用いて求める。 ・教科書 p101 例 19 を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ $y = 0$ とした二次方程式の解が x 座標になるかを確認する。 ☆教科書の記述から定義を確認させ、ペアで共有させる。 ・生徒を指名し、理解度を確認する。 ・生徒を指名し、理解度を確認する。 ☆既習事項を教科書で確認する。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次不等式も同様に解くことができるか発問を行う。 	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 二次関数のグラフと x 軸の位置関係から二次不等式の解を考察し、他者に説明しよう。 </div>		
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 p102 例 20 を読む。 ○二次不等式を解くための考え方を教科書から学ぶ。 ○$y > 0$ となる x の値の範囲を、$x^2 - 4x + 3 > 0$ の解とすることができる理由を考察する。 ○二次不等式の解法を整理し、文章にまとめる。 ・誤答例の検討 ○$x^2 - 2x - 4 < 0$ の解を $x < 1 \pm \sqrt{5}$ としてはいけない理由と、どのように訂正すればよいか考える。 ・教科書 p103 練習 33 を解く。 ○二次不等式の問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆個人で考えさせた上で、ペアになり考えを共有させる。 ☆教科書の記述内容を自身の言葉で整理しペアで互いにアウトプットさせる。 ☆問題の内容をグラフで表すことで、数式の意味を正確に把握させる。 ☆ペアになり、問題の解き方を説明する際、根拠をもって説明するよう促す。 	イー① 二次不等式の解法を整理し、自分の言葉で文章にまとめ、教科書の記述を補う説明ができる。(ノートの記述内容)
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の授業で何を学んだかを、ノートに簡潔にまとめる。 ・小テスト ○本時で学んだ内容に関する問題を解く。 ○個人内評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を複数名指名し、本時の学習内容を教室全体で共有する。 ☆問題の解き方の説明を重視する。 ・ループリックを活用させる。 ・学習を振り返り、今後の学習に向けた課題を記入させる。 	ウー② 自らの学習状況を把握し、今後学ぶべきことを見出し、学習の進め方を調整しようとしている。(振り返りシート)

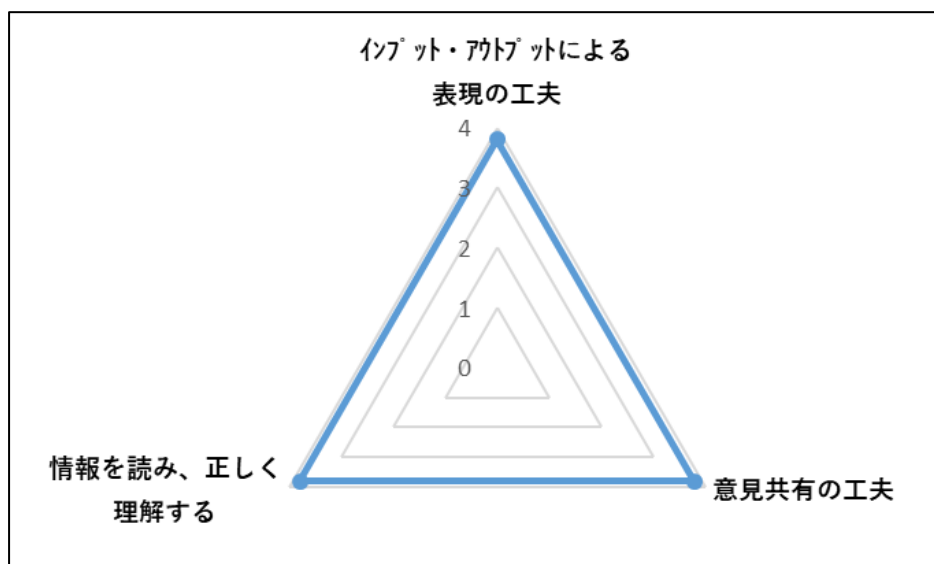
(7) 本時の振り返り

読解力を育成する観点から、本時の授業では教科書を用いてインプットし、ペアワークでアウトプットを行うこととした。

既習事項の確認やペアで説明し合う活動を取り入れることで、個々の生徒が自身の考えを深めるとともに、学習の過程を振り返ることができるよう工夫した、また、振り返りシートや小テストの解答状況の分析を行うことで、読解力や自ら学ぶ力に関して生徒の学習状況を評価するとともに、生徒の実態を考慮した教材の解釈や開発に生かした。



〔写真〕授業中の風景



〔資料〕参観者シートの集計結果

4 実践事例④

国語科「現代文B」学習指導案

(1) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 「小説Ⅱ」『こころ』
- イ 第一学習社『現代文B』

(2) 単元の目標

- ア 小説を主体的に読解鑑賞し、人物の心情や情景を想像しながら読み味わうことができる。

イ 語彙を豊かにするとともに、表現方法について理解する。

ウ 時代背景等の基本的事項をおさえ、登場人物の生き方についての読みを深める。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①小説内における時間の経過や心情の経緯について理解を深める。 ②明治時代のものの見方や考え方を広げ、現代への繋がりを理解している。	①作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深める。 ②作品に表れているものの見方、考え方を理解している。	①音読を通して、語句や漢字の理解を深める。 ②作品の背景と他の作品への関連性を深めようとしている。

(4) 「読解力」を高めるための本単元および本時の工夫について

ア 情報を処理する手段を生かした指導・支援の工夫

単元の本質的な問いを自ら設定する練習を繰り返し、その問いに対する答えを結論として仮設定することで単元の見通しをもたせる。また、問いを立てることにより、学習における疑問点、理解力を把握しやすくする。

イ 情報を知覚する手段の優位性を生かした指導の手だて

- ①本文中の重要語に線を引いたり書き出させたりしたものを基に、話し合い活動を行う。
- ②ICT機器を用いて、授業内容に関する写真や映像を適宜提示する。

ウ 在京外国人生徒への指導・支援の工夫

本単元は近代小説であるが古典的な側面を持つ作品である。語彙の面で読解が難しいことも踏まえ、内容読解において母語での理解を助けるため、中国語、英語の教材を用意する。

(5) 単元の指導計画と評価計画（全8時間中の7時間目）

時	学習活動・学習内容	指導上の留意点・配慮事項 ★「読解力」を高める指導の工夫	評価規準 【評価方法】
(単元全体の問)『こころ』を考察するためにはどのような問いを立てることがよいか。			
1	(本時の問い) 夏目漱石が生きた明治時代はどのような特徴があるか。 《目標》夏目漱石について学び、時代背景を理解する。 ○明治から大正の流れを理解する。 ○『こころ』の構成と展開を確認する。 ○登場人物と出来事を理解する。	★前学期の単元『セメント樽の中の手紙』との時代関係を連想させる。 ○便覧を使用し、文学史の流れを理解する。	○『こころ』全体の流れを理解し、特徴と時代背景を理解することができる。 ア②

2	(本時の問い) 登場人物には、それぞれどのような背景があるか。		
	《目標》小説の登場人物について理解する。 ○時代背景について理解する。 ○「私」と「K」について理解する。	★「私」と「K」の関係性を相関図に表し、図式化して理解をしやすくする。 ○生徒それぞれの理解度を確認する。	○時代背景を踏まえて、話の内容を考えることができる。 ウ①
3	(本時の問い) あらすじから分かる「私」と「K」の人物像はどのようなものか。		
	《目標》漱石の表現方法とKの人物像について考える。 ○Kの人物像を考える。 ○夏目漱石の表現方法を学ぶ。	★ Teams に第1段落の感想を100字～200字で書かせる。 ★第1段落の内容から疑問に思ったことについて問いを立てる。	○第一段落までの流れを確認し、内容を読み味わうことができる。イ②
4	(本時の問い) 「私」が考える「K」とはどんな存在か。		
	《目標》第1段落と第2段落の「私」と「K」の関係性を考える。 ○「私」の心情の変化を第1段落と第2段落で把握する。 ○「私」から見えている「K」を理解する。	○本文読解の補助としてプリント作業をする。	○登場人物の背景を理解し、読みを深めることができる。 イ①②
5	(本時の問い) 「覚悟」について考える。		
	《目標》様々な側面から「覚悟」を理解する。 ○言葉を理解し、Kの生き立ちと生き方について考える。 ○「覚悟」という言葉にはどのような内容が含まれるか考える。	★ Teams に第2段落の感想を100字～200字で書かせる。 ○「覚悟」という言葉の可能性を多角的に捉えさせる。	○登場人物の背景を理解し、読みを深めることができる。 ウ①②
6	(本時の問い) 「私」とKの人物像について考える。		
	《目標》「私」と「K」の行動を理解する。 ○それぞれの主張について考える。 ○「私」と「K」について具体的にまとめる。	★第2段落の内容から疑問に思ったことについて問いを立てる。	○自分の言葉でまとめることができ、内容の読みを深めている。イ②ウ②

(本時) 7	(本時の問い) 夏目漱石の考える『こころ』とは何か。		
	《目標》『こころ』という作品はどんなことをテーマとしているのか。 ○第2段落まで読み進めた中で「私」と「K」の行動を整理し、GWをしながら情報を共有する。	★問いを立てたものをGWで共有し、より読みを深めることのできる問いを選択する。	○登場人物の背景を理解し、読みを深めることができる。 イ①②
8	(本時の問い) 「こころ」について考察する。		
	《目標》それぞれが考える『こころ』のテーマについて発表する。 ○「こころ」のテーマは何か、多面的・多角的に考える。	○GWにて『こころ』のテーマについて発表するように模造紙を使用し、作成し、発表する。	○文章を読み、登場人物の心情、性格を読み取ることができる。ア②

(6) 本時 (全8時間中の7時間目)

ア 本時の目標

- ①自己の考えを他者に伝えるとともに考え方を知る。
- ②『こころ』読解による夏目漱石が伝えたいテーマを考えることができる。

イ 本時の展開

時間	・学習活動 ○学習内容	・指導上の留意点 ★「読解力」を高める指導の工夫	評価規準 (評価方法)
導入 4分	・前時の復習 ○道具の確認をする。 ○前時のプリントを用意し、前時を振り返る。 ○Teamsで提出した感想を共有する。	★相関図をプロジェクターに提示する。	
展開 10分	・本時の問いを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">夏目漱石の考える『こころ』とは何か。</div> ○5～6人のGWを行う。 ○「問いを立てよう」のプリントをそれぞれ発表する。	★問いをそれぞれ発表し、意見を共有する。	イ (提出) プリント及び Teams 課題

展開 35分	○他者の多様な「問い」を共有する。 ○グループの中から「問い」を立てるのに興味深いと思われるものをひとつ提案する。 <u>※新しく考察しなおしてもよい。</u> ○ポスターセッションの準備を行う。	・自身の意見と、他者の意見を踏まえ、多様な考えを知る。 ○他者の「問い」を共有し、多様な「問い」に気づかせる。 ★自身の考えを言語化し、他者へアウトプットを促す。 なぜその問いにしたのか、それぞれが思考できるように配慮する。	イ（話し合い）
まとめ 1分	○次回までに必要な資料があれば用意する。	★全員が課題達成できているか Teams の課題で確認する。	イ（提出）

（7）本時の振り返り

ア 自評

読解力の向上のために必要なことは、常に疑問を持つことだと考えている。課題に答えるという従来形式の授業を自ら疑問を持ち、その疑問を持って授業に臨む形式に変更した。インプットとアウトプットの機会とそのプロセスを大切にすることを評価として提示し、2学期間の授業を行ってきた。

授業回数が少なく疑問を深める機会が少なかったことで、個人的には授業数が足りず、生徒の理解の至らないところがあったが、ポスターセッションでは生徒間での情報の共有がみられ、普段受け身で授業に参加している生徒が積極的に教科書を読み、プリントを確認し、メモをまとめる姿が見られた。

イ 参観者からの意見

- ①教科全体を通して「こころ」に関するキーワードを挙げさせることで、自ら読み、正しく理解していくことにつながると感じました。
- ②自分たちで教材についてそれぞれが理解し、ポスターを作成することで自分たちの考えを表現する工夫が感じられた。
- ③問いを立てることで、本文の理解が深まり、インプットの力が高まる相乗効果があると思いました。ポスターセッションをグループで作成する活動を通して自分の考えを他者へアウトプットすることにつながり、単元全体の間で迫っていると感じました。
- ④具体的に何をやるか提示することにより、生徒が明確になり、今までやってきたことが生徒の頭の中で、点から線、線から面へとつながり広がっていくように見えました。
- ⑤「本質的な問い」＝「こころとは？」に挑戦している点。
- ⑥中国人生徒に中国語訳を準備していた。配慮がなされている。

⑦キーワードを織り交ぜて考えるきっかけ作りを促していた。

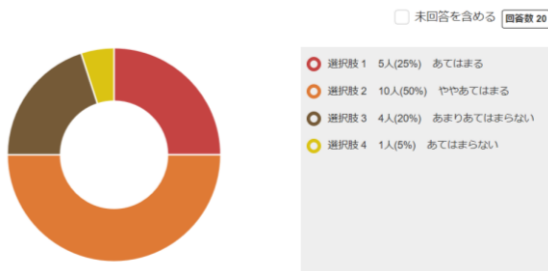
ウ 授業を通して感じられた改善点・改善策

①新聞、ポスター造りのステップを段階的に提示。

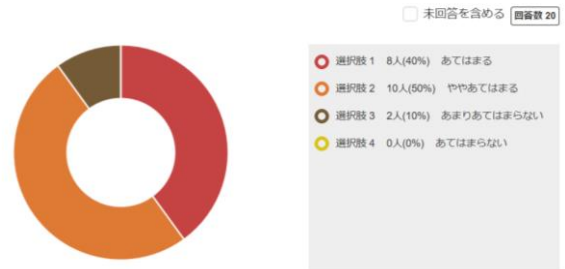
②難しい題材に取り組みさせ考えさせることを生徒たちがまた考えてみようと思わせる工夫。

(8) 授業後の生徒アンケートの結果

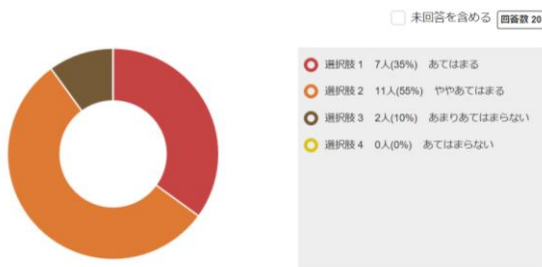
設問 1 【読解力】 授業中、自分の意見や考えを表現したり、相手に説明したりすることができましたか。



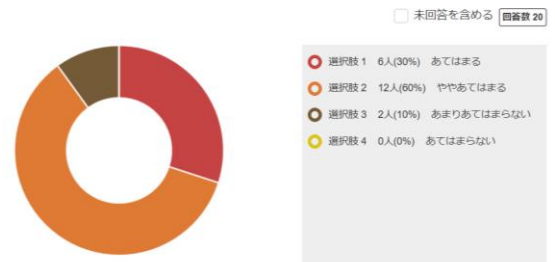
設問 2 【読解力】 生徒同士で意見を共有することで、理解が深まりましたか。



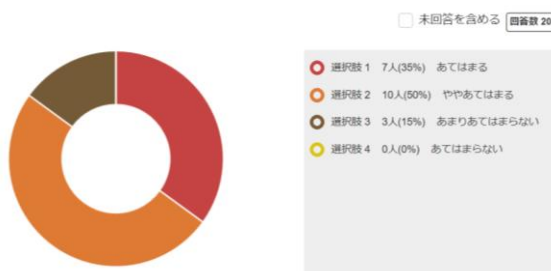
設問 3 【読解力】 与えられた情報を読み、正しく理解することができましたか。



設問 4 【自ら学ぶ力】 授業の目標や本時の問いを理解したうえで、授業を受けることができましたか。

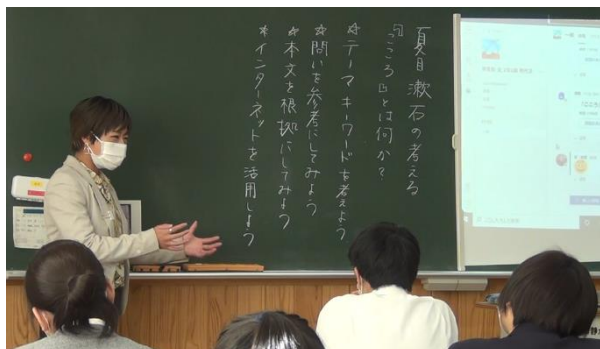


設問 5 【自ら学ぶ力】 授業中、自分の考えや意見を発言しやすい雰囲気がありましたか。

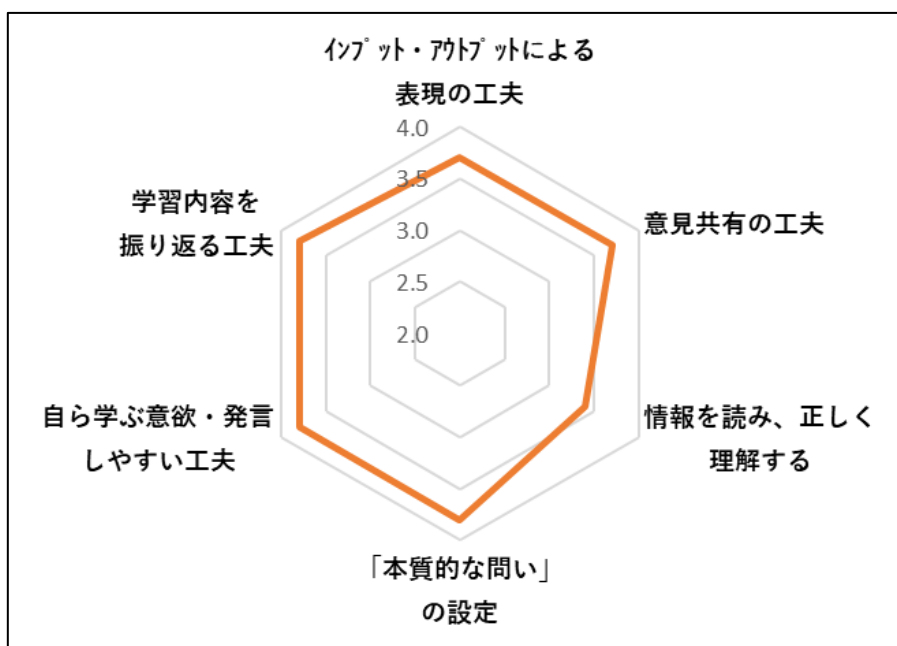


設問 6 【自ら学ぶ力】 授業の最後に、学習した内容や自分の理解状況を振り返ることができましたか。





〔写真〕 授業中の風景



〔資料〕 参観者シートの集計結果

5 実践事例⑤

英語科「 英語会話 」学習指導案

(1) 単元名

Lesson7 “Public Transportation” My passport English Conversation

(2) 単元の目標

- ア ペアやグループで相手の話を聞いたり、自らも話したりしようとする。
- イ やり取りのなかで、「場所をたずねる」「アドバイスをする」ことができる。
- ウ 駅でのたずね方や切符の買い方についての基本的な表現を理解している。
- エ 基本的な表現を使って、グループごとにオリジナルのスキットを作って発表ができる。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①「場所をたずねる」「アドバイスをする」といった基本的な表現を知っている。</p> <p>② 駅でのたずね方や、切符の買い方を理解している。</p>	<p>① 駅において希望を伝えるために正確に発話できる。</p> <p>② グループごとのスキットを作成して、「場所をたずねる」「アドバイスをする」発表ができる。</p>	<p>①「駅で交わされる会話」に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>② 間違いを恐れずに、最後まで英語を使おうと努めている。</p>

(4) 「読解力」を高めるための本単元および本時の工夫について

ア 読解の前提としての「読み取り」

① 普段の授業を通じて、まずはしっかりと相手の話を聞いて、意味や意図を読み取る習慣を身につける。

イ 読み取ったことを基に発信を行い、建設的なやり取りへと発展させる

① 普段の会話練習やスピーキングテストを通じて、読み取った内容を基に、自分なりの対応を行う。

② 本単元と本時においては、英語スキットを作成して発表する活動を通じて、読解とやり取りのスキル向上を目指す。

ウ 基本のやり取りを基に英語スキットを作成し、グループでの発表を目指して会話練習を行うプロセスを通じて、発信力ならびにそれを読み解く読解力の向上を目指す。

エ 他グループの発表を、内容を正確に理解しようとする態度で鑑賞することにより、読解力の向上を目指す。

オ 紙ならびに Classi による振り返りを行い、自分が読解した内容や、他グループからのフィードバックが共有できるようにする。

カ 全体を通じて、ペアワークやグループワーク、ICT による意見共有の機会を取り入れ、発言や発信がしやすい雰囲気を作る。

(5) 単元の指導計画と評価計画 (全6時間)

時	目標	主な学習内容・学習活動	評価規準 (評価法)
第1時	Lesson7 TALK IT UP / KEY EXPRESSION 「場所をたずねる」「アドバイスをする」表現を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会話を聞いて内容を読み取り、ワークブックの設問に答える。 ・ 本文を基に会話練習を行う。 	<p>アー① (ワークブック・確認)</p> <p>ウー① (発問やペアワークへの参加態度・観察)</p>

第2時	Lesson7 YOUR TURN/TRY IT OUT①		
	駅の案内板を見て 会話ができる	・会話の型をもとに、役割に応じ てやり取りを行う。 ・会話を聞いて、内容を読み取る。	アー②(ペアワーク・発表) ウー①(発問やペアワーク への参加態度・観察)
第3時	Lesson7 TRY IT OUT②		
	駅の窓口での切符 の買い方や時間の たずね方を理解で きる。	・駅員役とお客役に分かれて、や り取りを行う。	イー①(ペアワーク・発表)
第4時	Lesson7 TRY IT OUT③		
	場所をたずねたり、 アドバイスをした りするオリジナル のスキットを作る。	・グループに分かれてオリジナル のスキットを考え、原稿を作成す る。	イー②(グループワーク・ ワークシート・原稿)
第5時 (本時)	Lesson7 TRY IT OUT④		
	オリジナルのスキ ット基に、発表を行 う。	・グループごとに、オリジナルの スキットを基に、発表を行う。 ・他グループの発表を聞いて、内 容を理解する。	イー②(原稿・グループ発 表・観察) ウー②(発表・観察)
第6時	Lesson7 Listen UP/振り返り		
	まとめ	・リスニングテストに取り組む。 ・内容確認の小テストに取り組 む。 ・課全体のふり取りを行う。	アー①(リスニングテス ト・小テスト) アー②(スピーキングテス ト・小テスト)

(6) 本時 (全6時間中の5時間目)

ア 本時の目標

- ① ペアやグループで相手の話を聞いたり、自らも話したりしようとする。
- ② 基本的な表現を使って、グループごとにオリジナルのスキットを作って発表ができる。

イ 本時の展開

時間	・学習活動 ○学習内容	・指導上の留意点・配慮事項 ☆「読解力」を高める指導の工夫	評価規準(評 価方法)
導入 5分	○挨拶 ・ウォーミングアップ ○目標の提示 ・本時の目標と流れを確認する。 ○復習 ・本時の Key Expression を確認する。	・日常の話題についての簡単なやり取 りを行う。 ・授業の進め方とゴールを明確にして 意欲を引き出す。	

展開 1 7分 ×4	○発表活動 ・グループごとに前に出て発表活動を行う。 ・グループⅠ ・グループⅡ ・グループⅢ ・グループⅣ	・これまでの練習を基に、間違いを恐れずに楽しんで発表できる雰囲気を作る。 ☆他グループの発表も楽しんで観ながら、内容を読解したり、よいところを発見したりするように促す。	イー②(原稿・グループ発表・観察) ウー②(発表・観察)
展開 2 12分	○フィードバック(生徒同士) ・各グループの発表の内容について、感想や気付きを書いて共有する。	☆他グループの発表の内容について、主体的に読解して共有できるように、Classiも活用して感想や意見を書き込ませる。 ・必要に応じて、部分的に再演を行う。 ☆自分たちなりに考えて表現ならびに読解できたかどうかを振り返り、次の学習への見通しをもたせる。	ウー②(発表・観察)
まとめ 5分	○振り返り(教員から) ○挨拶	・教員から、よいところを全体に紹介することを中心に、すぐに改善できる点があればコメントする。 ・生徒が達成感をもって授業が終えられるようにコメントする。	

(7) 本時の振り返り

ア グループごとにオリジナルのスキットを作り、練習をし、失敗を恐れずに発信をすること、ならびに、そのパフォーマンスを楽しんで読解することに関して、生徒たちは精一杯に取り組み、形にすることができた。

イ 生徒全員が確実に参加をしたことと、普段のキャラクターとはずいぶん異なる活気を見せた生徒が複数いたことが、大きな成果であった。主体的・対話的な手法により、生徒たちの活躍の機会が増えることが分かった。

ウ 生徒同士の意見ならびに他グループへのアドバイス、および、教員による中間評価を行ったうえで、後半には、発表内容の変化・向上を共有するのが理想ではあったが、本授業ではそこまで至ることができなかった。引き続きの指導の中で、今回の振り返りを活かした活動へとつなげる。

エ 振り返りのためには、発表後に原稿を配布して、内容理解の確認につなげた方が、読解力の向上にもなった。

(8) 授業後の生徒アンケートの結果

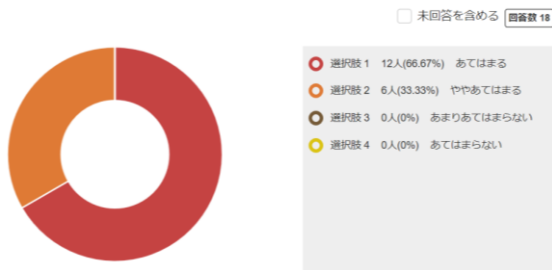
設問 1【読解力】授業中、自分の意見や考えを表現したり、相手に説明したりすることができましたか。



設問 2【読解力】生徒同士で意見を共有することで、理解が深まりましたか。



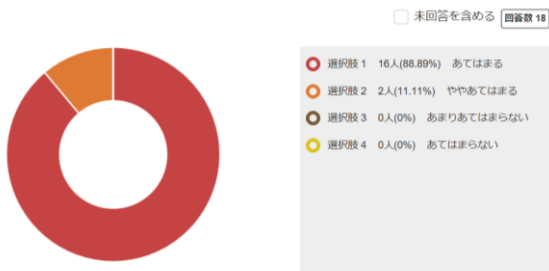
設問 3 【読解力】与えられた情報を読み、正しく理解することができましたか。



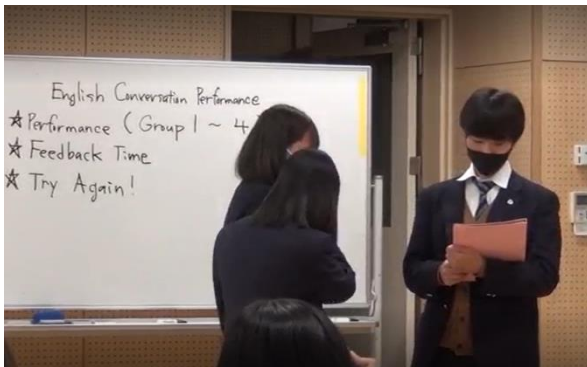
設問 4 【自ら学ぶ力】授業の目標や本時の問いを理解したうえで、授業を受けることができましたか。



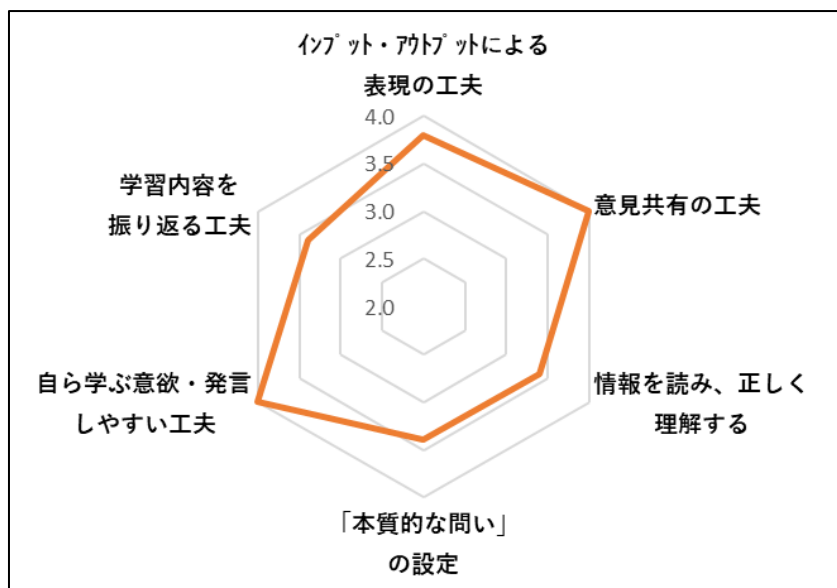
設問 5 【自ら学ぶ力】授業中、自分の考えや意見を発言しやすい雰囲気がありましたか。



設問 6 【自ら学ぶ力】授業の最後に、学習した内容や自分の理解状況を振り返ることができましたか。



〔写真〕授業中の風景



〔資料〕参観者シートの集計結果

IV 令和3年度 自ら学ぶ力 WG の実践事例

1 実践事例①

理科「 物理基礎 」学習指導案

(1) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

ア 「力と運動の関係」

イ 『改訂版 新編 物理基礎』東京書籍

(2) 単元の目標

物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
様々な事象について、根拠強く規則性や法則性を見出すことができる。また、身に付くまで演習を繰り返し、知識を定着させることができる。	未知の事象に対し、解決するために適合するモデルを導き出したり、適合する実験を行うことで新たな概念を形成し表現することができる。	課題を解決するために、自己と他者を相互に尊重し、意見を比較検討することができる。

(4) 科目の本質と本単元との関連

①なぜ、この教科・科目を学ぶのか	②この科目で獲得する社会で活用する力
◎私たちの身の回りの物理現象や様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解するため ◎科学的に探究する力を身に付けるため	現状の問題を解決するために適合する課題を見いだすことができる。自己と他者を尊重して、適切な人間関係を構築し、意見を比較検討することができる。
【本単元との関連】 本単元の主たる目的は、生徒が力と運動を量的関係的な視点で捉え、現象をグラフや数式によって表現できるようになるとともに、力と運動に関する実験等を行い、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えることとして整理することができることである。 授業における工夫としては、生徒の学び合いを中心とし、インプットとアウトプットの大切さを生徒に話している。インプットした物理概念をアウトプットすることで、数式と物理現象の理解が深まると共に、クラス全体の学習の底上げにもつながると考える。	

このような授業を通して、身の回りの物理現象や様々なエネルギーに関する基本的な概念や法則を理解させ、自然界の様々な現象は、数式を用いて表すことができるという概念形成につなげるとともに、探究の過程における、課題の設定、実験計画の立案、実験結果の考察、発表などを通して、社会人として求められる科学的思考力等の育成を図っていく。

(5) 「自ら学ぶ力」を高めるための本単元および本時の工夫について

自ら学ぶ力を育成するため、自然の事物・現象から課題や仮説の設定をしたり、観察・実験などの結果を分析・解釈したりする活動を行い、理科で育成すべき資質・能力を意識しながら、教師が理解させたい内容について、生徒自身が気付くことのできる単元の構成にした。また、生徒が見通しをもって学習に取り組み、自己の学習を振り返って次の学びにつなげられるようにするため、ルーブリックを活用することとした。さらに、あらかじめ個人で考える場面を設定した上で、少人数でのディスカッション等の場面を設定し、個人の考えを広げて深めさせるとともに、科学的な根拠に基づいて自らの考えを表現できるようにした。

重要なことは、探究の過程を通して、またはその過程の一部を通して、「理科の見方・考え方」を働かせて科学的な概念を形成し、獲得した「理科の見方・考え方」を次の学習や社会の中で生かせるようにすることである。「ルーブリック」は、授業のねらいを明確にする指標であり、その活用により「ウ 主体的に学習に取り組む態度」を評価することが可能となるとともに、その結果を生徒に効果的にフィードバックすることにより主体的な学び(自ら学ぶ力)につなげていく。

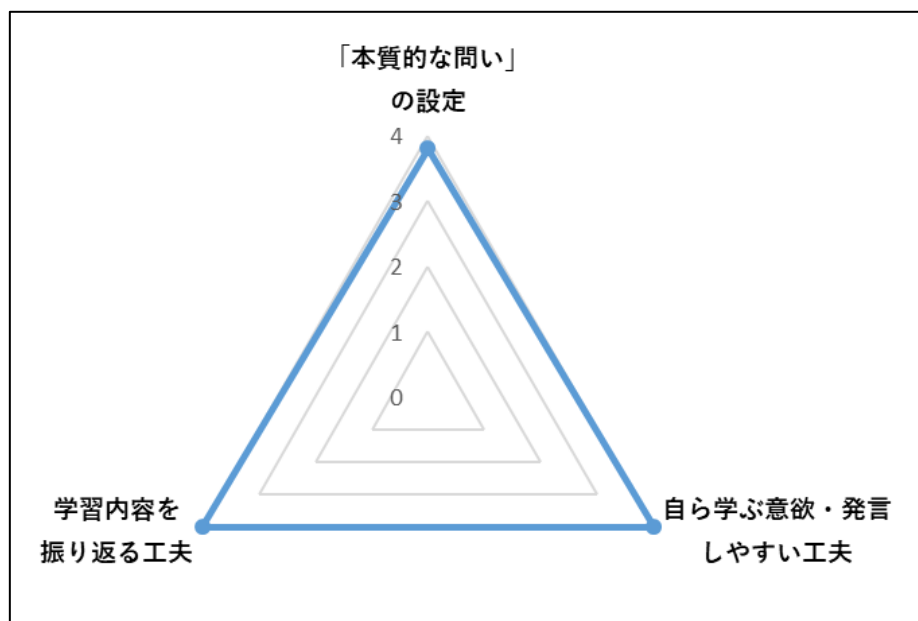
(6) 単元の指導計画と評価計画 (全6時間中の6時間目)

時	目標	主な学習内容・学習活動	評価規準 (評価法)
(単元全体の問い) 重力とはどのような力か。物体が落下する現象を様々な視点で見よう。			
第1時	(本時の問い) 物体にはどのような力がはたらいているのか。 ・物体に働いている力を矢印で図示できるようになる。	・静止している物体、運動している物体に働く力を理解する。 ・力の矢印の書き方を理解する。	ア 物体に働く力を指摘できる。(観察) イ 物体に働く力を力の矢印によって書きあらわすことができる。(問題演習) ウ 概念をアウトプットすることができる。
第2時	(本時の問い) 重力とはどのような力なのか。重力の大きさを測定してみよう。 ・軽い物体と重い物体はどちらが速く落下するのか説明できるようになる。	・物体の落下速度はその物体の質量によらず一定であることを理解する。 ・重力加速度の大きさを測定する。	ア 物体の落下速度はその物体の質量によらず一定であることを理解する。また、風船がゆっくり落下する理由を説明できる。(レポート、ノート) イ 適切な実験を行い、重力加

			速度を測定できる(レポート) ウ 協力して実験を成功させる。
第3時	(本時の問い) 自由落下とはどのような運動なのか。		
	・自由落下運動を理解し、V-t グラフを書けるようになる。	・自由落下運動を観察し、適切に図示する。 ・V-t グラフに書き表し、時間と速度、落下距離を求める。	イ V-t グラフを適切に書き表すことができる。(観察、ノート) イ V-t グラフから時間と速度、落下距離を求めることができる。(レポート、考査) ウ 概念をアウトプットすることができる。
第4時	(本時の問い) 投げ上げ運動とはどのような運動なのか。		
	・投げ上げ運動を理解し、V-t グラフを書けるようになる。	・投げ上げ運動を観察し、適切に図示する。 ・V-t グラフに書き表し、時間と速度、落下距離を求める。	イ V-t グラフを適切に書き表すことができる。(観察、ノート) イ V-t グラフから時間と速度、落下距離を求めることができる。(レポート、考査) ウ 概念をアウトプットすることができる。
第5時	(本時の問い) 落下運動について考えをまとめよう。		
	・様々な落下運動についてまとめ、理解を深める。 ・水平投射運動を図示できるようにする。	・自由落下運動と投げ上げ運動の基礎的な考え方を学び合う。 ・水平投射運動を図示する。	イ V-t グラフを適切に書き表すことができる。(観察、ノート) ウ 概念をアウトプットすることができる。
第6時 (本時)	(本時の問い) 斜方投射とはどのような運動なのか。		
	・斜方投射運動を理解し、V-t グラフを書けるようになる。	・投げ上げ運動を観察し、適切に図示する。 ・V-t グラフに書き表し、時間と速度、落下距離を求める。	イ V-t グラフを適切に書き表すことができる。(観察、ノート) イ V-t グラフから時間と速度、落下距離を求めることができる。(レポート、考査) ウ 概念をアウトプットすることができる。

れている。アウトプットが学習の深化につながると生徒に効果を伝えた上で学び合いを行った。生徒はよく動いていると感じている。

- イ 物理基礎は選択科目であり、理数に興味がある生徒が選択している。しかし、計算が苦手な生徒が多く、物理公式の理解に繋がらない場合が多い。
- ウ 物理公式や概念を言語化させるようにしている。単に計算ができるだけでなく、計算結果が表す現象を理解させるためである。
- エ 成績上位者へのフォローが今後の課題であると考えている。



[資料] 参観者シートの集計結果

2 実践事例②

数学科「 数学 I 」学習指導案

- (1) 単元名 1次不等式の解き方
- (2) 単元の目標 不等式の性質を利用し、1次不等式の解き方を理解する。
- (3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1次不等式の基本的な性質を理解している。	1次不等式の基本的な性質を利用し、正しく1次不等式を解くことができる。	1次不等式の性質を自ら理解し、基本的な問題を解くことができる。 また、お互いに学びあう姿勢を育む。

(4) 科目の本質と本単元との関連

①なぜ、この教科・科目を学ぶのか 論理的思考力・数学的思考力・基礎計算力などの修得	②この科目で獲得する社会で活用する力 様々な事象において、大小関係を利用して正しく表現する力。
<p>【本単元との関連】</p> <p>任意の2数を考えた時、三者択一の法則が成り立つ。この三者択一の法則により、大小関係を正確に知ることが必要不可欠である。不等号を利用して物の大小関係を表すことにより、あらゆる現象を不等式化することで、データ・数式化し、計算処理が容易になることがある。それを踏まえて、不等式の計算を学ぶことは、非常に大切である。</p> <p>また、パソコンなどのプログラムにも不等式は重要であり、不等式の知識は社会生活上重要な内容である。</p>	

(5) 「自ら学ぶ力」を高めるための本単元および本時の工夫について

基本的な内容のみを伝達し、自ら考えさせることに重点を置いて指導をしていく。

なぜ、負の数を両辺にかけたり、割ったりすると、不等号の向きが変わるのかななどを具体例を挙げて、理解をさせていく。

(6) 単元の指導計画と評価計画 (全4時間)

時	目標	主な学習内容・学習活動	評価規準 (評価法)
(単元全体の問い) 不等式とは何か。不等式はどのような場所で活用されるか。			
第1時	(本時の問い) 不等式とは何か。 不等式	不等式の読み方・不等式の表現方法・ 不等式の図示	口頭試問 問題演習
第2時 (本時)	(本時の問い) 1次不等式を解く。 不等式の性質・1次不等式	不等式の性質 1次不等式の解法	口頭試問 問題演習
第3時	(本時の問い) 連立不等式を解く。 1次不等式・連立不等式	1次不等式の解法 連立不等式の解法	口頭試問 問題演習
第4時	(本時の問い) 日常生活の例を不等式で表す。 不等式の応用	1次不等式の応用(文章題)	口頭試問 問題演習

(7) 本時 (全4時間中の第2時)

ア 本時の目標

不等式の性質を利用し、1次不等式を解く。

イ 本時の展開

時間	・学習活動 ○学習内容	・指導上の留意点・配慮事項 ☆「自ら学ぶ力」を高める指導の工夫	評価規準 (評価方法)
導入	1次不等式の性質について学ぶ 「テーマ1」 不等号の向きが変わるのは、どのような作業を行ったときか	生徒に口頭試問で質問しながら、不等式の性質について、理解を深めていく。 ☆負の数をかけたり、割ったりすることで、不等号の向きが変わることを生徒の発言で、提示をする。	口頭試問
展開	1次方程式について学習する。 「テーマ2」 不等号の性質を利用し、1次不等式を解く。 例題を2題程度行い、教科書のP42～45の練習問題(練習44～47)を解かせる。	生徒への例題提示は2題程度行い、問題演習の時間を多くとる。(はじめのうちは机間指導を行わず、自分たちで計算するように促す。) 不等式の解法は別解もあるので、生徒の中に別解で解いている生徒がいなければ、こちらで情報提供を行う。	口頭試問 生徒による 問題演習
まとめ	問題演習の答え合わせを行い、基本事項の確認を行う。	答え合わせが残った問題は、次回答え合わせを行う。	口頭試問

(8) 本時の振り返り

自ら学ぶ力をメインにして授業構築を考えた。

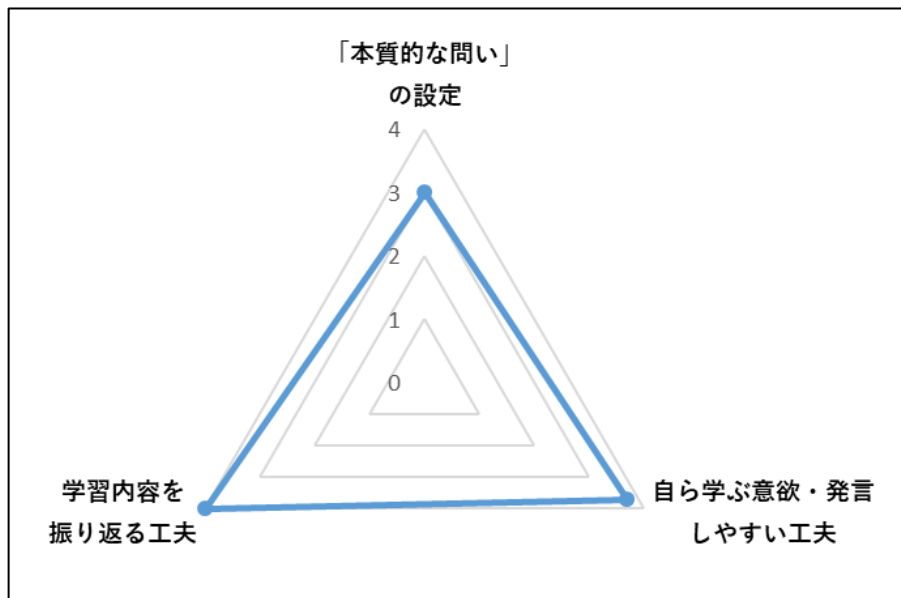
本校の生徒は、事前の教員とコミュニケーションの構築がなされていないのと、授業においても熱心に取り組むなどの作業が少ないように感じている。また、小中学校での基礎基本が定着していないことも多く、どのように発問を提示し、どのように進行していかなければならないかが非常に難しい。また、研究授業であり、生徒が複数の教員にみられることで、いつも以上に緊張していることも見て取れた。実際、授業最後の5分程度にて、生徒同士の話し合いが進んでいったと思う。今後も分析が必要であると感じた。

(9) 参観者のコメント

- ・復習する際、生徒を当てながら進めることで、積極的に復習に取り組める雰囲気になっていた。
- ・間違っても答えることが大事→発言しやすくなる。
- ・あえてすぐ解説せずに生徒から答えを導きだそうとしていた。
- ・学習内容を振り返る場合、生徒の学習定着度に応じて、中学校の内容まで復習するなど、工夫が感じられた。
- ・確実に答えることができる質問をし、生徒の意欲・肯定感を高める工夫が感じられました。
- ・授業の中で何度か「これで良いのか？」と質問を投げかけることで、生徒に考えさせる工夫がとても感じられました。
- ・生徒たちがとても真剣に問題演習に取り組んでいたもので、生徒たちで相談して正解を導き出すこともできそうだなと感じました。

(10) 生徒の授業を受けた感想(classiにて後日アンケートを実施 一部抜粋 原文ママ)

- ・一次不等式の解き方が授業を受ける前はわからなかったけれど、授業を受けた後はわかるようになって良かった。
- ・受ける前 緊張しました。数学が苦手なので間違えたらどうしようって不安がありました 受けた後 最初は緊張しましたが一次不等式のやり方をわかりやすく説明してもらえたおかげで楽しく解くことができました。一次不等式はやっていて楽しかったです
- ・授業前は分からなかったところがあったけど、授業後は練習問題などを解いて理解することができた！
- ・授業を受ける前は一次不等式を聞いたこともありませんでしたが、先生や周りの生徒の教えのおかげである程度は理解することが出来ました。
- ・授業の前はあんまりわかんなかった問題が多かったけど、授業後は一つ一つ細かく教えてくれたのでわかった問題が増えて良かった。



〔資料〕 参観者シートの集計結果

3 実践事例③

公民科「 現代社会 」学習指導案

(1) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

「青年期とは」（教材 教科書『最新現代社会 新訂版』実教出版）

(2) 単元の目標

ア 自らの体験から青年期の心身の変化を理解する。

イ 自立した主体になるために成人になる自覚を持ち、自分に合った社会参画の方法を多面的・多角的に考察する。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①青年期の基本的な知識に対し、自分の体験を振り返り、結び付けて理解することができる。</p> <p>②自立した主体を目指し、適切な職業選択に必要な知識を理解することができる。</p>	<p>①大人とは何歳からであるかを考察し、制度的な成人と心身の自立が完成した大人との違いに気づくことができる。</p> <p>②社会参画に必要な要素を多面的・多角的に考察し、自分の言葉で説明できる。</p>	<p>①人生における青年期の時期に関心を持ち、社会参画に積極的に関わることができる。</p> <p>②成人年齢引き下げを受け、2年後には成人として扱われることに対し自身の問題として捉えることができる。</p>

(4) 科目の本質と本単元との関連

①なぜ、この教科・科目を学ぶのか	②この科目で獲得する社会で活用する力
今を知り、自分の生きている社会を知ること で、よりよい人生を送るため。	データ分析等、客観的な事実に基づき、心理学的、社会学的な考察ができること。
<p>【本単元との関連】</p> <p>本単元では、自ら学ぶ力 WG で話し合った現代社会の魅力である以下の点に留意し授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な社会問題に絶対的な正解がないこと。 ・現代的事象と自分とのつながりを考えることができる。 ・遠い世界の話に感じるが、結局は人間がやっていることなので親しみやすい。 <p>以上の3点と単元全体の問いである「自立した主体の形成に必要なものは何か」とを関連付け、魅力ある授業を行う。</p>	

(5) 「自ら学ぶ力」を高めるための本単元および本時の工夫について

単元全体の問いである「自立した主体の形成に必要なものは何か」に対し、今回は2つのステップを踏まえて考察させる。ステップ1は「自己を知る」である。第1時～第3時までは、青年期の心身の変化や発達課題を学ぶことで自己の現状を客観視する。ステップ2は「適切な職業観や社会参画を模索し、自身とすり合わせる」である。第4時では、自己実現のために勤労や社会参画があることを丁寧に指導しつつ、生徒に考えさせる時間をできるだけたくさん設けられるように心がけていく。

(6) 単元の指導計画と評価計画 (全4時間)

時	目標	主な学習内容・学習活動	評価規準 (評価法)
(単元全体の問い) 自立した主体の形成に必要なものは何か。			
第1時 (本時)	(本時の問い) 私は「大人」と「子ども」のどちらなのか。 「大人」と「子ども」の違いを考察し、自分の言葉で表現する。	・「大人」だと考える年齢を考察する。 ・青年期の出現は歴史的に誕生したことを理解する。	・ア①-(ワークシート、Classi、定期考査) ・イ①-(ワークシート、観察、発表) ・ウ②-(ワークシート、観察)
第2時	(本時の問い) 心の働きにはどのようなものがあるか。 青年期の心の働きを理解する。	・防衛機制を理解し、身近な例を自分の言葉で表現する。	・ア①-(ワークシート、定期考査) ・ウ①-(家庭学習課題)
第3時	(本時の問い) 青年期の発達課題は何か。 青年期の発達課題を理解する。	・アイデンティティの確立と拡散を比較検討する。	・ア①-(ワークシート、定期考査) ・ウ①-(家庭学習課題)
第4時	(本時の問い) 何のために働くのか。 適切な職業観、勤労観をつかむ。	・職業選択で重視すべきことを考察する。	・ア②-(ワークシート、定期考査) ・イ②-(Classi、ワークシート、発表) ・ウ①-(ワークシート、観察)

(7) 本時 (全4時間中の第1時)

ア 本時の目標

- ①「大人」と「子ども」の違いを考察し、自分の言葉で表現する。
- ②青年期の出現について歴史的に誕生した段階であることを踏まえて理解する。

イ 本時の展開

時間	・学習活動 ○学習内容	・指導上の留意点・配慮事項 ☆「自ら学ぶ力」を高める指導の工夫	評価規準(評価方法)
導入 (5分)	・本時の問いを確認。		
本時の問い「私は『大人』と『子ども』のどちらなのか。」			
	○「大人」だと考える年齢とその理由を考える。 ・個人で「大人」だと考える年齢を考える。	☆年齢だけでなく「なぜ」そのように考えたか理由付けができるように促す。	・ウ②-(ワークシート、観察)

<p>展開 (35分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれ、自分の意見を発表し、他の人の意見をワークシートにまとめる。 グループの代表者が出てきた意見を紹介する。 <p>○日本の「成人」の考え方を法律(公職選挙法、民法、少年法)の規定を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正解が無い問いであるため、自由な意見が出やすい環境になるよう机間指導をまめに行う。 ☆ワークシートの構成を工夫することで、自分と他の人の考えを眺めやすくし、新たな発見を促す。 発表内容を紙にまとめさせることで簡潔に発表させるようにする。 2022年から成人年齢が18歳になることを強調し、「成人」になる自覚を芽生えさせる。 ☆自分の身近な20歳や18歳の人を想像させ、「大人」 	<ul style="list-style-type: none"> イ①-(Classi、ワークシート) ウ②-(ワークシート、観察) イ①-(ワークシート、発表) ウ②-(ワークシート、観察)
<p>発問：「大人」と「成人」の違いは何か。</p>			
	<p>○「成人」と「大人」の辞書での意味を比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「青年期の出現」「自我のめざめ」について教科書を読み、ワークシートにキーワードを記入する。 <p>○通過儀礼を例示し、現代に残っているものもあることを理解する。</p> <p>○青年期の出現する経緯を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆年齢が一定に達する≠「大人」でないと気づかせ、自分は「大人」と「子ども」のどちらなのか、と疑問を持たせる。 ☆グループ学習で分からないところを教え合うことで相互学習の場をつくる。 写真をスクリーンに投影し、イメージを湧かせやすくする。 図をスクリーンに投影し、生徒が理解しているか表情で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ウ②-(ワークシート、観察) ア①-(ワークシート、定期考査)
<p>まとめ (5分)</p>	<p>○青年期の特徴(第二性徴、第二反抗期)を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題提示：自分の青年期エピソードをまとめ、Classiに提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆生徒達が考えやすいように、授業者の知り合いが体験した印象強い青年期のエピソードを紹介する。 生徒の内面の部分に触れる内容もあるため、次回共有するときは匿名にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ウ②-(観察、ワークシート、Classi)

第2部 1 1 青年期とは (p.36~37)

年 組 番 名前

本日の問い：

青年期の出現

・〔①〕…12~13歳ごろから24~25歳ごろまで。
→急速に身長が伸び、体重が増える。
体つきが男らしく、女らしくなる〔②〕の出現。
体毛が生えたり、声が変わったり、乳房が発達したりなどする。

●青年期の出現と延長

[近代以前]

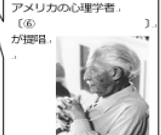
〔③〕を通して、子どもから一足飛びにおとなへ。
・通過儀礼…人の一生における節目におこなわれる儀式。
→例1：
・かつては通過儀礼を通して子どもからおとなへとなった(まわりからも認められた)。
→例2：

[近代以降]

〔④〕革命・革命を経て、身分制が崩れると、職業が選択自由になる。
→一定の学習期間が必要になり、準備期間としての青年期の誕生!!
→子どもと大人の区別があいまいになり、通過儀礼が形式的なものになっていった。

・〔⑤〕…青年期は、社会的責任や義務が与えられ、自立に向けた準備期間とする。

・現代社会の複雑化、技能の習得の必要性。
→モラトリアム期(青年期)の延長傾向がみられるように。



現代社会プリントNO. 12

自らのめざめと第二の誕生

・青年期…自分を強く意識する。自分にこだわりを持ちはじめ、自分の思う自分、他人から見られる自分へ意識を向けるようになる=〔⑦〕のめざめ。

・〔⑧〕としての青年期。
第一の誕生：母親から生まれたとき。
↓
幼年~少年期：親の保護のもとで成長。
↓
活動の範囲を広げるが、考えや行動は、親の判断や考えの範囲内。
青年期：かつての自分を否定、親以外の人たちの考えや生き方を批判的に取り込む。
→新しい自分の形成=〔⑧〕。



親や社会の価値観に否定的となる時期。

・青年期…〔⑨〕を経て、精神的に親から独立し立ち立つ心理的離乳期。
→心の不安・動揺・葛藤も経験。

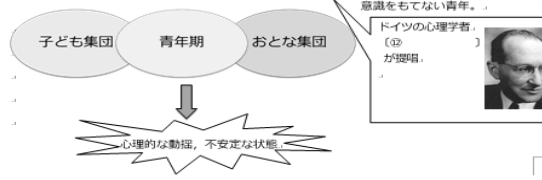
自分はどうな人間か、どう生きるべきかを問い、自分なりの人生観や世界観を作っていく。

人生についての見方・考え方。

自然・社会・人間など、世界全体についての見方・考え方。

マーシャルマン

・〔⑩〕…いずれの集団にも安定した帰属意識をもてない青年。



Q あなたは何歳からが大人だと考えますか。理由も考えましょう。

年齢	理由
私の考え	歳
の考え	歳
の考え	歳
の考え	歳

★法律ではどうなっているのか…?

法律名	条文
A	(第2条1項)この法律で、「少年」とはB歳を満たさない者をいい、「成人」とはC歳以上の者をいう。
D	(第9条)日本国民で年齢E年以上の者は、衆議院議員及び参議院議員の選挙権を有する。
F	(第4条)年齢G歳をもって、成年とする。

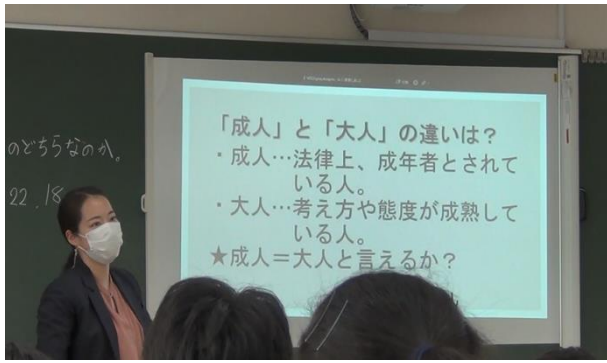
(8) 本時の振り返り

<自評>

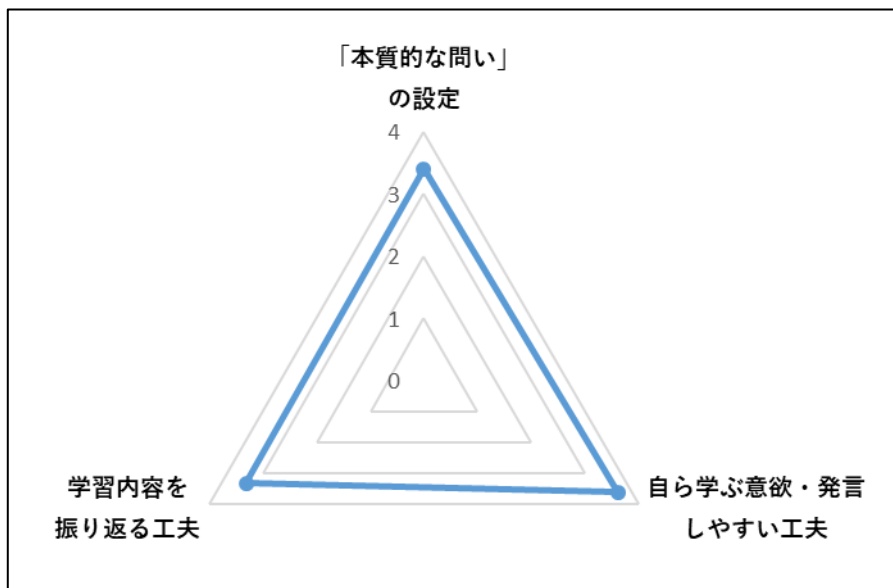
- ・今回の研究授業では、「本質的な問い」の設定に力点を置いた。この単元は生徒に関わりの深い青年期を扱うため、単なる知識の伝達だけで終わらせるのではなく、大人と子どもの違いや自分自身の心身の変化を感じ取って欲しいと感じた。問いを設定し、自分なりの「答え」を探し、他者の意見を聞いて深化させることで自己を客観視できるようにすることを目標とした。
- ・授業の課題としては、全体的に学習内容を盛り込みすぎたことだ。後半の青年期の誕生した経緯や心の変化に関する説明が駆け足になった。それを解消するためにも余裕のある時間設定を計画する。また、生徒の知識定着を確認する場として、授業の振り返りを行えると次の授業で未理解箇所の補強を図ることができると感じた。

<生徒の感想> (原文ママ)

- ・成人したからといって大人と言えるわけではなく、逆に成人していなくても考えが大人で自立していたら大人というのかなと思った。自分も大人と言える年になってきているからちゃんと自覚をもって自立できるようになりたいと思った。
- ・青年期について深く考えられた。
- ・大人と成人の違いがわかった気がする！大人になるために考え方や行動を考えていかなければならないと思った！
- ・大人としての考え方が変わった。
- ・いつからが大人なのかは、人それぞれ違うということ。
- ・自分はもう大人になったとでも思っていたが、まだ精神的にも身体的にも子どもなんだと思った。
- ・私は「青年」とは何歳を指すのかわかっていませんでしたが、授業を受けてよくわかりました。
- ・自分のことについて知れた。
- ・大人になる＝成人と捉えていた部分もあったので、まだまだ子どもの思考なのかもしれない。物事の本質を捉えて読み解くべきだとわかった。成人してから立派な大人になっていきたい。
- ・成人式の知識がよくわかっていなかったので知れてよかったです。
- ・反抗期は自分だけでなく多くの人が直面することだとわかり、あまり深く考えなくていいことだと思った。
- ・大人は 20 を超えてからだとばかり思っていたが他の人の意見や先生の言葉などで考え方が変わった。
- ・色々な視点から見られるようになった。
- ・歳で区切りの期間があるとは思わなかった。
- ・いまは私は大人でも子どもでもない時期というものにあてはまるんだなと思った。どっちかに絶対区分しなければいけないと思っていたので驚いた。



〔写真〕授業中の風景



〔資料〕参観者シートの集計結果

4 実践事例④

理科「生物基礎」学習指導案

(1) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

ア 「体内環境の維持」

イ 『改訂 新編 生物基礎』東京書籍

(2) 単元の目標

ア 生物の体内環境について、体内環境が保たれる仕組みを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。

イ 生物の体内環境について、観察、実験を通して探究し、体内環境が保たれる仕組みの特徴を見いだして表現する。

ウ 生物の体内環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重する態度を養う。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物の体内環境について、生物の体内環境が保たれる仕組みの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	生物の体内環境について、観察、実験を通して探究し、生物の体内環境が保たれる仕組みの特徴を見いだして表現している。	生物の体内環境に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

(4) 科目の本質と本単元との関連

①なぜ、この教科・科目を学ぶのか	②この科目で獲得する社会で活用する力
<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するため。 ・科学的に探究する力を身に付けるため。 ・生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育成するため。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題を解決する際に、予想や仮説から検証し、正しい答えを根拠立てて導き出すことができる力。 ・他者と協働して課題を解決していく力。 ・生命を尊重し、自然環境を保全するために持続可能な社会を実現していこうとする力。
<p>【本単元との関連】</p> <p>本単元は、生物や生物現象が多様でありながらも、共通する基本的な概念や原理・法則を理解させ、体内環境とそれを維持する仕組みが日常生活に深く関連していることに気づかせることを目的としている。その気づきから、新たな課題や仮説を設定し、解決しようとする態度を育成していきたい。</p> <p>授業における工夫としては、自らの体験や日常生活と関連付けることを欠かさないようにしている。それにより、体内環境やそれを維持する仕組みなどの生命現象に対して興味・関心を抱かせ、生徒が学習内容に主体的に関わることによって、生物や生物現象の理解が深まると考える。また、授業の内容を振り返り、自らの言葉で要約をさせる活動にも力を入れ、科学的に探究する力や表現力の向上を目指している。</p> <p>このような授業を通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解させ、それらが日常生活や社会と深く関連していることを気づかせるとともに、生命を尊重し、自然環境を保全するために寄与する態度の育成を図っていく。</p>	

(5) 「自ら学ぶ力」を高めるための本単元および本時の工夫について

「自ら学ぶ力」を育成するため、日常生活や自らの体験から気づいたり、疑問を持ったりすることができるような発問を多く行い、教師が理解させたい内容について主体的に学習できるように工夫している。発問に対する生徒の答えには、前向きな声かけを積極的に行うことで、生徒の自己肯定感を高め、発言しやすい環境づくりを行っている。

また、本時では生徒が見通しをもって学習に取り組み、自己の学習を振り返って次の学びにつなげられるようにするため、授業の終わりに自己評価を行うよう工夫した。

(6) 単元の指導計画と評価計画 (全7時間)

時	目標	主な学習内容・学習活動	評価規準 (評価法)
(単元全体の問い) 生物が環境に左右されずに生活できるのはなぜだろうか。			
第1時	(本時の問い) 体内環境を保つ仕組みはどのような仕組みか。		
	・体内環境を一定に保つ仕組みについて理解する。	恒常性	ア 発問に正しく答えることができる。(発問) イ 恒常性の仕組みを図で示すことができる(プリント・考査) ウ 授業の内容を振り返り、自らの言葉でまとめることができる(プリント)
第2時 (本時)	(本時の問い) 体液とは何か。体液はどのように全身を巡っているか。		
	・体内環境である体液について理解する。 ・体液の循環によって体内環境が保たれていることを理解する。	体液と体液の循環	ア 発問に正しく答えることができる(発問) イ 体循環・肺循環を図示し、流れを説明できる(プリント・考査) ウ 授業の内容を振り返り、自らの言葉でまとめることができる(プリント)
第3時	(本時の問い) 赤血球はどのようにして全身に酸素を運んでいるか。		
	・心臓の構造とそのはたらきを理解する。 ・血液の役割について理解する。	心臓と血液の成分	ア 発問に正しく答えることができる(発問) イ 心臓の構造を図示し、働きを説明できる(プリント・考査) ウ 授業の内容を振り返り、自らの言葉でまとめることができる(プリント)
第4時	(本時の問い) 血液凝固の仕組みは何のためにあるのか。		
	・血液の役割について理解する。	血液の成分	ア 発問に正しく答えることができる(発問) イ 血液凝固反応について図示し、仕組みを説明できる(プリント・考査) ウ 授業の内容を振り返り、自らの言葉でまとめることができる(プリント)
第5時	(本時の問い) 肝臓はどのようにして体内環境を保つ働きをしているか。		
	・肝臓の構造とその働きを理解する。	肝臓の構造と働き	ア 発問に正しく答えることができる(発問) イ 肝臓の構造を図示し、働きを説明できる(プリント・考査) ウ 授業の内容を振り返り、自らの言葉でまとめることができる(プリント)

第6時	(本時の問い) 腎臓はどのようにして体内環境を保つ働きをしているか。		
	・腎臓の構造を理解する。	腎臓の構造	ア 発問に正しく答えることができる(発問) イ 腎臓の構造を図示し、働きを説明できる(プリント・考査) ウ 授業の内容を振り返り、自らの言葉でまとめることができる(プリント)
第7時	(本時の問い) 尿は何のために生成されているか。		
	・腎臓の働きである尿の生成について理解する。	尿の生成	ア 発問に正しく答えることができる(発問) イ 尿の生成の仕組みを図示し、説明できる(プリント・考査) ウ 授業の内容を振り返り、自らの言葉でまとめることができる(プリント)

(7) 本時 (全7時間中の第2時)

ア 本時の目標

生物が正常に生命活動を営むために、体液を循環させ、細胞が物質交換を効率よく行うことを理解する。

イ 本時の展開

時間	・学習活動 ○学習内容	・指導上の留意点・配慮事項 ☆「自ら学ぶ力」を高める指導の工夫	評価規準(評価方法)
導入 5分	・前時の復習 ○体内環境と恒常性の復習 ・本時の目標	☆目標を提示し、見通しをもたせる。	
本時の目標:生物はなぜ体液を循環させる必要があるのか理解する。			
展開 30分	○体液について理解する。 ○体液がどこにあるかによって呼び方が変わることを理解する。 ○発問①	・ICTを活用し、図を多く提示しながら説明する。	
なぜ血管から染み出して、組織液になる必要があるのか?			
	○血管系について理解する。 ○生物によって体液の循環方法が異なることを理解する。 ○体液の循環について理解する。	☆机間指導を行う際、生徒の答えを確認し、前向きな声かけを行う。	イ(プリント) ウ(プリント・発言)

	○体液の循環を図示し、体液の流れを理解する。	☆日常生活や実体験の例を取り上げ、自らの体に深く関係することを意識させる。	
	○発問②	動脈は管の壁が厚く、静脈には弁があるのはなぜか？	
	○血管の構造を理解する。	☆机間指導を行う際、生徒の答えを確認し、前向きな声かけを行う。	イ (プリント) ウ (プリント・発言)
まとめ 10分	○発問③	生物はなぜ体液を循環させる必要があるのか？	
	・自己評価に取り組む。	☆本時の観点を明示することで、達成する目標を意識させる。 ☆授業中の活動を振り返らせ、取り組みの態度を意識させる。	ア (プリント) イ (プリント) ウ (プリント)
	・プリント提出		

生物基礎プリント
体液の循環 ④p.81-82

No.10

本時の目標：

生物はなぜ体液を循環させる必要があるのか理解する。

◎体液

体液 = () + () + ()

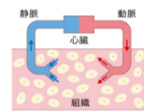
--	--	--

◎血管系

・開放血管系

→ 毛細血管 ()

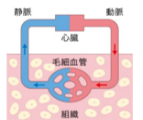
ex) 昆虫・貝など



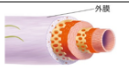
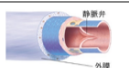

・閉鎖血管系

→ 毛細血管 ()

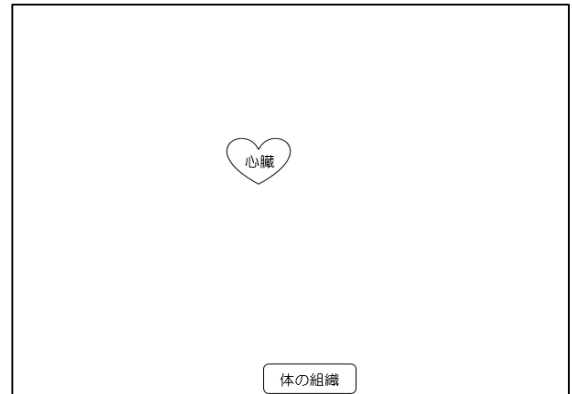
ex) ヒトなど



◎血管の構造

()	()	()
		
		一層の細胞からできており、 () が () が 構造をしている。

◎体液の循環



Q1. なぜ血管から染み出して、組織液になる必要があるのか？

回答欄

⇒

Q2. 動脈は管の壁が厚く、静脈には弁があるのはなぜか？

回答欄

⇒

Q3.

回答欄

自己評価

①本時の目標は達成できたか？

A ・ B ・ C

②積極的に取り組めたか？

A ・ B ・ C

③自ら発言できたか？

A ・ B ・ C

④本時の内容を他人に説明できたか？

A ・ B ・ C

A: 大変よくできた (⑤よくできる)

B: できた (④したかったけど、できなかった)

C: 全くできなかった (⑤できない)

年 組 番 氏名

[資料] 授業で使用したプリント

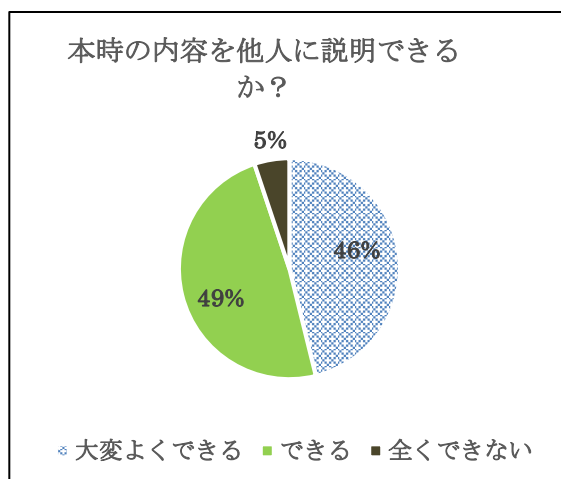
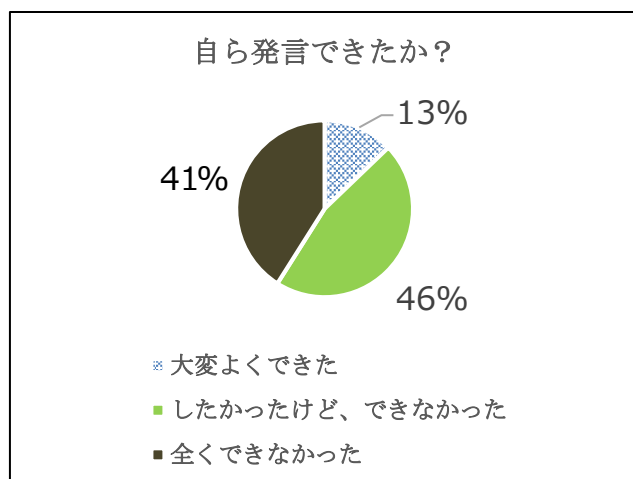
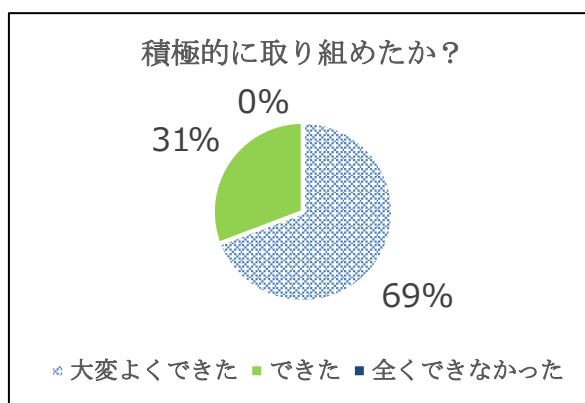
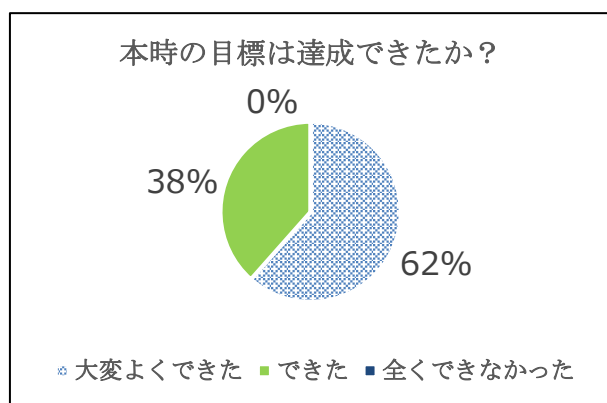
(8) 本時の振り返り

〈自身の振り返り〉

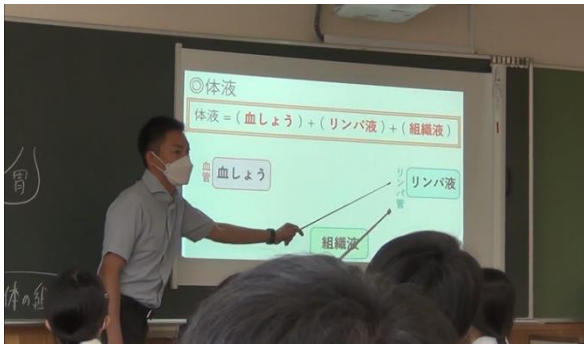
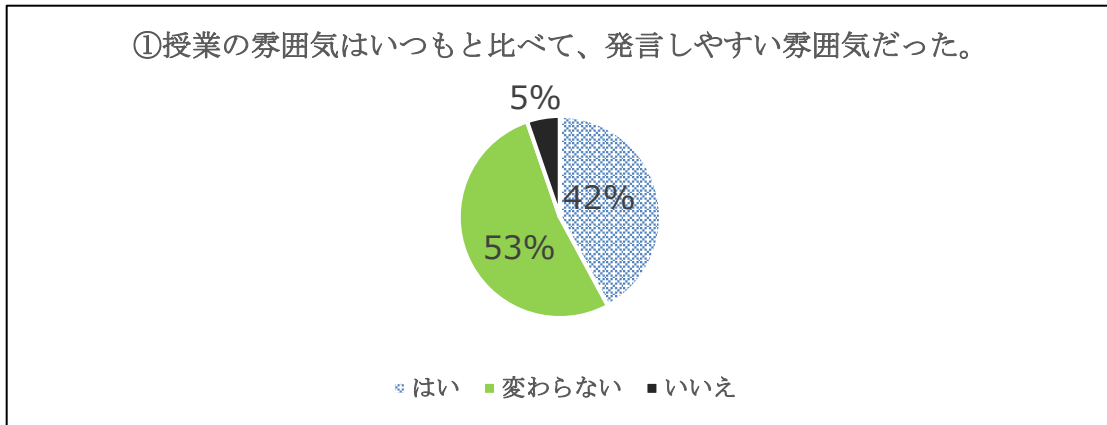
- ・自己評価の結果から、本時の目標や自己評価を明示したことで、生徒本人が見通しをもって取り組んでいた様子であり、生徒が主体的に学習に取り組んでいたと言える。
- ・発問に対する答えを記入する欄をプリントに用意することで、発問に対して積極的に取り組んでいたと感じている。しかし、自分の考えが書けていて、かつ発言をしたい気持ちを持っているにもかかわらず、発言ができない生徒が一定数いることがわかった。これらの生徒が発言するために何が必要なのか考えていきたい。
- ・また、授業内容が多く、発問に対して生徒が考える時間を十分に確保できず、考えを書けていない生徒がいた。さらに、生徒の考えを僅かしか共有できず、効率よく多くの意見を共有できるよう工夫することも今後の課題だと考えている。

〈生徒の反応〉

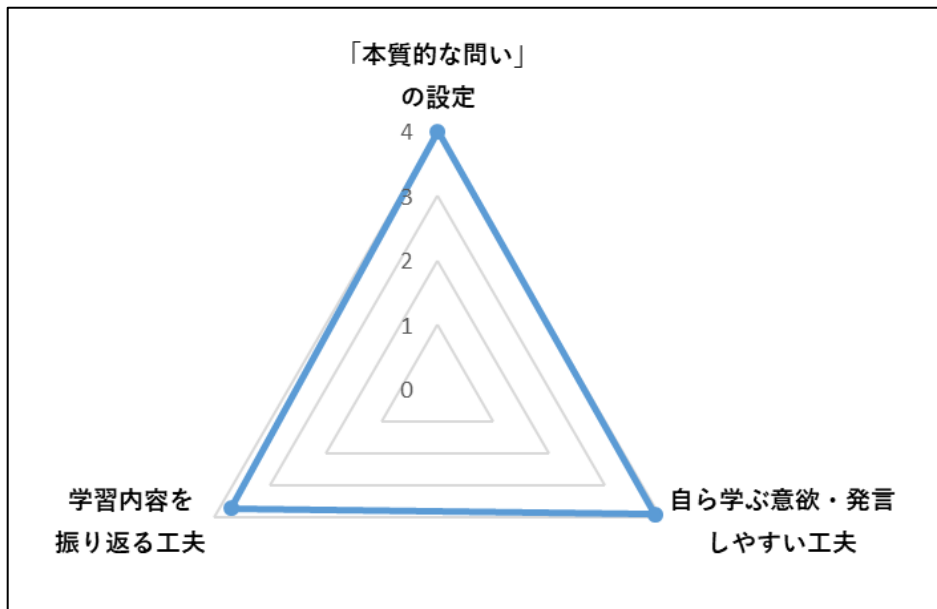
○自己評価の結果



○授業後アンケート



〔写真〕 授業中の風景



〔資料〕 参観者シートの集計結果

5 実践事例⑤

英語科「コミュニケーション英語Ⅰ」学習指導案

(1) 単元名

ア LESSON 6 Eric Carle: How He Creates His Art

イ Grove English Communication I 文英堂

(2) 単元の目標

ア 絵本作家エリック・カールの創作の秘密をインタビュー形式で読み、概要や要点を捉える。

イ 「関係代名詞」「to 不定詞（副詞的用法）」「関係代名詞 what」を用いながら、聞いたり読んだりしたことについて、概要や自分の考えを相手に伝える。

ウ 自分と相手の意見の共通点・相違点を意識しながら、積極的に自分の考えを述べようとしている。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「関係代名詞」「to 不定詞（副詞的用法）」「関係代名詞 what」の意味や働きの理解を基に、エリック・カールの作品や創作について書かれた文の概要を読み取る技能を身に付けている。 <p>【話すこと（発表）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人やものについて、情報や考え、気持ちなどを話して伝える技能を身に付けている。 	<p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビューをして情報を集め説明するために、世界的に有名な絵本作家についてのインタビューを読んで、概要や要点を捉えている。 <p>【話すこと（発表）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事実や情報をより適切にまた効果的に伝え合えるように、人やものについて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えている。 	<p>【読むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビューをして情報を集め説明するために、世界的に有名な絵本作家についてのインタビューを読んで、概要や要点を捉えようとしている。 <p>【話すこと（発表）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事実や情報をより適切にまた効果的に伝え合えるように、人やものについて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えようとしている。

(4) 科目の本質と本単元との関連

①なぜ、この教科・科目を学ぶのか	②この科目で獲得する社会で活用する力
○グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力を向上させるため ○異なる文化に触れることで、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を備えるため	○コミュニケーション能力 ○柔軟な思考力
<p>【本単元との関連】</p> <p>本単元の主たる目的は、日本でも人気の絵本作家エリック・カールの創作の秘密をインタビュー形式で読み、日常の体験が創作につながっていることを知るとともに、関係代名詞ならびに不定詞を用いて人や物について説明することである。</p> <p>授業における工夫としては、本文内容と自身の生活・体験とを関連付けることを欠かさないようにしている。エリック・カールのインタビューを読み、自身の思いや意見との共通点・相違点などを考えることで、言語や文化に対する関心を高め、国際理解を深めるようにした。また、ペア・グループワークを多く設定し、身につけた英語を実践に移す場面設定も大切にしている。他の生徒の発言に関心を持って聞きながら、英語で積極的に意見を述べていくことを促している。</p> <p>このような授業を通して、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、グローバル化で求められる外国語によるコミュニケーション能力の育成を図っていく。</p>	

(5) 「自ら学ぶ力」を高めるための本単元および本時の工夫について

自ら学ぶ力を育成するため、本文内容を基に自身の考えを話す機会を設定したり、学習した文法を使った表現活動を行い、外国語科で育成すべき資質・能力を意識しながら、教員が理解させたい内容について、生徒自身が気付くことのできる単元の構成にした。

また、本校は「自ら学ぶ力実態調査」における調査項目「授業中、私のクラスは発言しやすい雰囲気である」の点数がとりわけ低い。本時は生徒の表現活動が中心となり、学習した文法事項を用いて自身の言いたいことをアウトプットする。リピート・パターン練習より、自信が持てず発言しにくいと生徒が感じることを予想される。発言や質問をしやすくするために、ペアワークやグループワークを取り入れ、授業中に発言する機会を増やす。さらに、生徒同士で意見等を交換し合うことで、発言にあたっての自分の意見を持つ、疑問点が明らかになる、という効果が期待できる。どんな意見でも否定せず、発言そのものを肯定する雰囲気づくりを行う。

(6) 単元の指導計画と評価計画 (全7時間)

時	目標	主な学習内容・学習活動	評価規準 (評価法)
<p>(単元全体の問い)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界中の子どもの心に刻まれるエリック・カールの絵本作品はどのように創作されたのだろうか。 人やものについて詳しく説明するにはどうすればよいだろうか。 			
第1時	(本時の問い)	Why do small creatures appear in Mr. Carle's books?	
	<ul style="list-style-type: none"> カールの絵本に小さな生き物が多く登場する理由を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> カールの絵本にたびたび登場する小さな生き物について、その着想の原点を探る。 	<p>ア カールの絵本に小さな生き物が描かれている理由を理解する。(観察)</p> <p>イ 本文に関する質問を聞き、答えを書いたり話したりする。(観察・考査)</p> <p>ウ 間違いを恐れずに積極的に言語活動を行い、ペアで互いの考えの相違点や共通点を話し合おうとしている。(観察)</p>
第2時	(本時の問い)	What does Mr. Carle say about his favorite books and music?	
	<ul style="list-style-type: none"> 創作する過程を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> カールが物語作家になったきっかけを理解する。 カールにとってのイラスト作製と音楽の関係を理解する。 	<p>ア 創作の過程を理解する。(観察)</p> <p>イ 本文に関する質問を聞き、答えを書いたり話したりする。(観察・考査)</p> <p>ウ 間違いを恐れずに積極的に言語活動を行い、ペアで互いの考えの相違点や共通点を話し合おうとしている。(観察)</p>
第3時	(本時の問い)	Where do Mr. Carle's ideas come from?	
	<ul style="list-style-type: none"> アイデアがどこから生まれるかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> カールの絵本作りの源を理解する。 	<p>ア アイディアがどこから生まれるかを理解する。(観察)</p> <p>イ 本文に関する質問を聞き、答えを書いたり話したりする。(観察・考査)</p> <p>ウ 間違いを恐れずに積極的に言語活動を行い、ペアで互いの考えの相違点や共通点を話し合おうとしている。(観察)</p>
第4時	(本時の問い)	What do you do when you need to come up with a new idea for something?	
	<ul style="list-style-type: none"> LESSON 6の内容をまとめる。 本時の問いに答える。 	<ul style="list-style-type: none"> LESSON 6のサマリーを作成する。 本文中の表現を基に、本時の問いに対する自身の意見を発表する。 	<p>ア 既習の表現を用いて LESSON 6を要約する。(観察)</p> <p>イ 情報や考えなどを正確に話したり書いたりする。(発表・ワークシート)</p> <p>ウ ペア・グループワークにおいて、アイコンタクトをとり相づちを打つなどして、発言しやすい雰囲気を作ろうとしている。(観察)</p>

第5時	(本時の問い)	What is relative pronoun? What is to-infinitive (adverbial)?	
	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたテーマについて自身の意見を管轄に述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習(教科書、ノートブック) 文法事項を取り入れた会話表現や質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> ア 関係代名詞と to 不定詞の用法を理解している。(観察・演習) イ 既習の単語や関係代名詞・to 不定詞を使って、与えられたテーマについて自分の意見を簡潔に述べるができる。(やりとり・考査) ウ 間違いを恐れずに積極的に言語活動を行っている。(観察)
第6時 (本時)	(本時の問い)	How do we introduce someone with relative pronouns?	
	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞を使って好きな有名人を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習(ワークシート) 集めた情報を基に文章を書く。 作った英文をペア・グループで発表し、フィードバックをし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ア 関係代名詞の用法を理解している。(観察・演習) イ 関係代名詞を使って、好きな有名人に関する英文を書き、発表する。(観察・ワークシート) ウ 間違いを恐れずに積極的に言語活動を行っている。(観察)
第7時	(本時の問い)	How do we support a fact or something with reasons and examples?	
	<ul style="list-style-type: none"> to 不定詞(副詞的用法)を使って学校生活の中である行動の理由等について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習(ワークシート) 自身が学校である行動とその理由を to 不定詞を使って書く。 作った英文をグループで発表し、フィードバックをし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ア to 不定詞の用法を理解している。(観察・演習) イ 不定詞を使って、学校生活における自身の行動とその理由に関する英文を書き、発表する。(観察・ワークシート) ウ 間違いを恐れずに積極的に言語活動を行っている。(観察)

(7) 本時 (全7時間中の第6時)

ア 本時の目標

- 自分の好きな人物について、関係代名詞を含む文を加えながら書く。

イ 本時の展開

時間	学習活動 ○学習内容	指導上の留意点・配慮事項 ☆「自ら学ぶ力」を高める指導の工夫	評価規準(評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の確認をする。 ○関係代名詞の用法を確認する。 ○本時の目標 	<ul style="list-style-type: none"> ☆目標を提示し、見通しをもたせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 本時の目標：Make a quiz about a famous person whom you like!. </div>			

<p>展開 38分</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Pattern Practice ○関係代名詞を用いた英文の並び替え問題に答える。 • Writing ○クイズの原稿を英語で書く。 • Pair 活動 ○「フィードバックの視点」を基に、ペアで話し合いながら、お互いの英文を評価し、アドバイスをを行う。 • Group 活動 ○英文の意味とクイズの答えを考える。 • Presentation ○グループの代表が作成した英文を発表する。 ○発表者が述べた内容のうち、教員が板書した英文を書き取り、解説等を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒が本時に作成する原稿のモデルとなるフォーマットで例文を確認し、文構造理解を深める。 • 生徒の活動と一緒に参加し、生徒の定着状況、つまづきを把握する。 • 必要に応じてインターネットを活用する。 ☆生徒が発言しやすいよう、話す内容をあらかじめ考える時間を設ける。 ☆「フィードバックの視点」を基に、お互いの英文を確認し、よりわかりやすい英文にするためのアドバイスをし合うよう促す。 • グループ内で司会を決め、活動を円滑に進める。 • 生徒の発表のうち、関係代名詞が使われている箇所を板書し、ポジティブなフィードバックを与える。 	<p>ア (観察・ワークシート)</p> <p>イ (観察・ワークシート)</p> <p>ウ (観察)</p>
<p>まとめ 7分</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本時の授業内容を振り返る。 • 本時の授業の自己評価を行う。 • プリント提出 	<ul style="list-style-type: none"> ☆授業中の活動を振り返らせ、取り組みの態度を意識させる。 	<p>イ (ワークシート)</p>

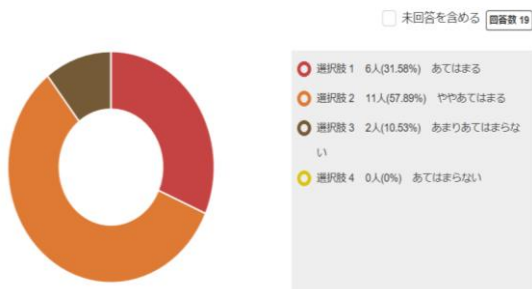
(8) 本時の振り返り

<自評>

- 発言しやすく、授業にコミットできる環境づくりを目指しペア・グループワークを多く取り入れた授業構成を普段からしているが、ペアという最小単位の活動でも発言のしづらさを感じる生徒が一定数いる。そうした生徒への支援が十分にできなかったと感じる。発言しづらい生徒向けに「フィードバックを書いてペアに渡す」というシステムを少し前から取り入れているが、1人1人の生徒が考えていることを後から確認することができ、この手法には一定の手ごたえも感じる。
- アクティビティーがメインであったが、最後の振り返りの時間を十分に確保することができなかった。「活動あって学びなし＝楽しただけで終わり」の状態にならないよう、計画的に進めていきたい。

(9) 授業後の生徒アンケートの結果

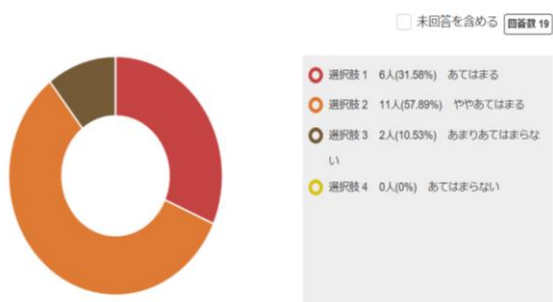
設問 1【読解力】授業中、自分の意見や考えを表現したり、相手に説明したりすることができましたか。



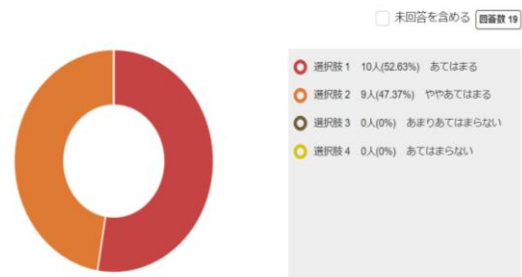
設問 2【読解力】生徒同士で意見を共有することで、理解が深まりましたか。



設問 3【読解力】与えられた情報を読み、正しく理解することができましたか。



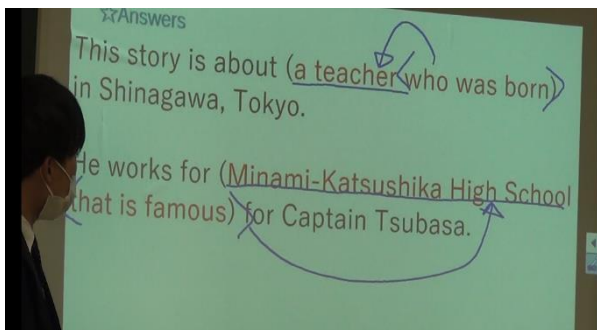
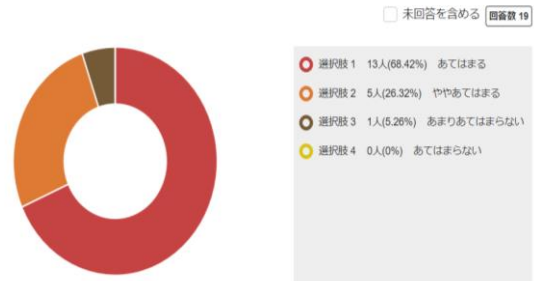
設問 4【自ら学ぶ力】授業の目標や本時の問いを理解したうえで、授業を受けることができましたか。



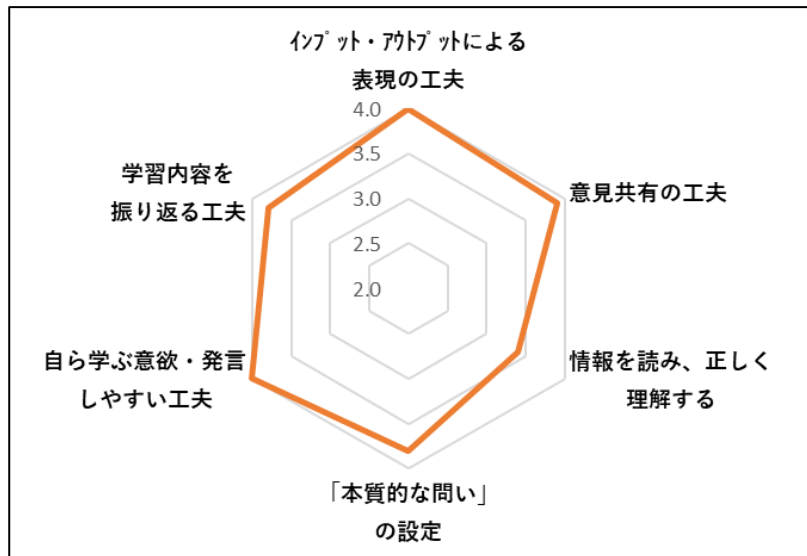
設問 5【自ら学ぶ力】授業中、自分の考えや意見を発言しやすい雰囲気がありましたか。



設問 6【自ら学ぶ力】授業の最後に、学習した内容や自分の理解状況を振り返ることができましたか。



〔写真〕 授業中の風景



[資料] 参観者シートの集計結果

6 実践事例⑥

保健体育科「 体育 」学習指導案

(1) 単元名

ア 球技 バレーボール（ネット型）

(2) 単元の目標

ア バレーボールの基本的な動作を習得し、空いた場所をめぐる攻防をできるようにする。また、技術などの名称や行い方、競技会の仕方などを理解する。

イ 自己やチームの課題を見つけ、その課題に応じた取り組み方を工夫する。

ウ バレーボールの楽しさを味わうことができ、主体的に学習に取り組めるようにする。また、お互いに助け合い個人やチームの技術を高める中で、自他ともに安全に配慮しようとする。

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 基本動作を身に付け、空間を作り出し攻防を展開する。	① 学習課題に対して自己やチームの課題に応じた運動を継続するための取り組み方工夫できるようにする。	① バレーボールの学習に主体的かつ安全に取り組もうとしている。
② 技術などの名称や行い方を理解する。	② バレーボールを継続して楽しむための自己に適した関わり方を見つけている。	② 互いに助け合い教え合おうとしている。
③ 簡単な審判法や競技会の仕方を理解する。		

(4) 科目の本質と本単元との関連

①なぜ、この教科・科目を学ぶのか	②この科目で獲得する社会で活用する力
勝敗を競う楽しさ・体力の高め方・技術の行い方などを学ぶ	生涯にわたって健康的で豊かなスポーツライフを実現する力
<p>【本単元との関連】</p> <p>バレーボールは仲間と協力し、体力の高め方や技術の行い方などを習得しながら、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことを目標とする単元である。その中で、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることや、自ら健康や安全を確保するという経験を通して、運動やスポーツが多様な人々を結びつけ、健康的で豊かなスポーツライフを実現する力が育成されると考える。</p>	

(5) 「自ら学ぶ力」を高めるための本単元および本時の工夫について

- ア 周りの人の動きを見て、自分の技能の向上を目指せるよう、授業の中で運動観察をする時間を設ける。
- イ ペア活動・グループ活動の編成はバレーボール経験者や身体能力の差を考慮し、教え合い・学び合いの場になるよう練習課題を与え取り組ませる。
- ウ 技能の差があっても生徒全員が向上心をもって学習に取り組めるよう、課題別に目標を設定するようにする。
- エ 自己やチームの課題に向き合い課題を解決するにはどうすれば良いか考える習慣をつけるために、学習カードを用いたグループワークを行う。

(6) 単元（題材）の指導計画と評価計画（全9時間中の8時間目）

時	目標	学習内容・学習活動	評価基準（評価方法）
(単元全体の問い) バレーボールの楽しさを味わうには何が必要か。			
第1時	(本時の問い) 現在の自分の実力ほどの程度か。		
	学習内容について理解する	導入：オリエンテーション 展開：技能チェック まとめ：次回課題発表	・ウ - (観察) ・ア - (学習カードの記述の観察)
第2時	(本時の問い) アンダーハンドパス、オーバーハンドパスのポイントは何か。		
	基本動作を身に付ける	導入：本時の確認 展開：基本動作練習(パス) まとめ：次回課題発表	・ア - (技能の観察) ・イ - (学習カードの記述の観察)
第3時	(本時の問い) 安定したパスでボールをつなぐにはどんなことが必要か。		
	基本動作を身に付ける	導入：本時の確認 展開：基本動作練習(パス) まとめ：次回課題発表	・ア - (技能の観察) ・イ - (学習カードの記述の観察)

第4時	(本時の問い)サーブが入るようになるにはどんなことを意識するべきか。		
	基本動作を身に付ける	導入：本時の確認 展開：基本動作練習(サーブ、レシーブ) まとめ：次回課題発表	・ア - (技能の観察) ・イ - (学習カードの記述の観察)
第5時	(本時の問い)スパイクを打つ時に何を意識するか。		
	自己やチームの課題に合った練習を考える	導入：本時の確認 展開：基本動作練習(スパイク) まとめ：次回課題発表	・ア - (技能の観察) ・イ - (学習カードの記述の観察)
第6時	(本時の問い)課題克服のためにはどんな練習をするべきか。		
	練習の成果をゲームにいかす	導入：本時の確認 展開：チーム練習・リーグ戦① まとめ：次回課題発表	・ウ - (チーム練習の様子を観察) ・イ - (学習カードの記述の観察) ・ア - (技能の観察)
第7時	(本時の問い)課題克服のためにはどんな練習をするべきか。		
	練習の成果をゲームにいかす	導入：本時の確認 展開：チーム練習・リーグ戦② まとめ：次回課題発表	・ウ - (チーム練習の様子を観察) ・イ - 学習カードの記述の観察 ・ア - (技能の観察)
第8時 (本時)	(本時の問い)課題克服のためにはどんな練習をするべきか。		
	練習の成果を技能テストで発揮する	導入：本時の確認 展開：チーム練習・リーグ戦③ まとめ：次回課題発表	・ウ - (授業中の発言・行動) ・イ - (学習カードの記述の観察)
第9時	(本時の問い)バレーボール(球技の授業を通じて何を学んだか)		
	自分の取り組みを評価し、今後の授業や学校生活にいかす。	導入：本時の確認 展開：授業の振り返り・レポート作成 まとめ：2学期の総括と3学期の授業について	・イ - (レポートの観察)

(7) 本時(全9時間中の第8時)

ア 本時の目標

- ①仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」のなどの1連の動きでゲームを展開できるようになる。【知識・技能】
- ②自己やチームの課題を見つけ、その課題に応じた取り組み方を工夫する。
【思考・判断・表現】
- ③バレーボールの楽しさを味わうことができ、主体的に学習に取り組めるようにする。また、お互いに助け合い、自他ともに安全に配慮しようとする。
【主体的に学習に取り組む態度】

イ 本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価基準（評価方法）																									
導入 5分	<p>○整列・号令・挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席番号順、4列横隊で整列 <p>○体操</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育委員が前に出で体操を行う。 <p>○本時の学習内容確認・対戦相手発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにホワイトボード前に集合する。 <table border="1" data-bbox="312 891 767 1133"> <tr> <td></td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		A	B	C	D	A					B					C					D					<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみを確認させてから座らせるようにする。 ・指先や足首など入念にストレッチさせる。 ・本時の課題を意識させる。 ・チーム練習のルールを確認させる。 ・ホワイトボードのリーグ戦表見てリーグ戦の対戦相手を確認させる。 	
	A	B	C	D																								
A																												
B																												
C																												
D																												
<p>チームの課題を克服するためには何が必要か</p>																												
展開 20分	<p>○チーム練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回のゲームの反省・チームの課題を踏まえて、練習計画(20分間)を立てる。 ・練習計画が書かれたボードを見ながら、チームごと練習に取り組む。 ・以下のように四か所に分かれ練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習計画が書かれたボードを生徒に渡し、内容を確認させる。 ・リーダーだけでなく一人ひとりが意識して練習に取り組めるよう、自分たちの課題と練習目的を確認し理解させる 	<p>イ-（学習カード）</p> <p>ア-（観察）</p>																									

<p>まとめ 5分</p>	<p>○結果発表 ・ボールを片付け、ホワイトボード前にチームごとに集合。 ・体育委員が結果を発表する。</p> <p>○試合の反省・リーグ戦振り返り ・各コートで円になり、試合の反省とリーグ戦全体を通した振り返りを行う。 ・今回はリーグ戦最後の試合なので、リーグ戦全体を通して、自己とチームがどう変化したか評価する。</p> <p>○本時のまとめ ・チームの振り返り発表 チームの代表者が学習カードの【リーグ戦を振り返って】にまとめた内容を発表する。 ・次回の授業内容の確認</p>	<p>・本時の課題についてどう取り組んだか、どこまで達成できたか考えさせる。 ・学習カードを使いグループの意見をまとめさせる。</p> <p>・自分のチームだけでなく他チームの努力や成長したところを認め合う態度で聞かせる。</p>	<p>・イ-(学習カード)</p>
-------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------

(8) 本時の振り返り

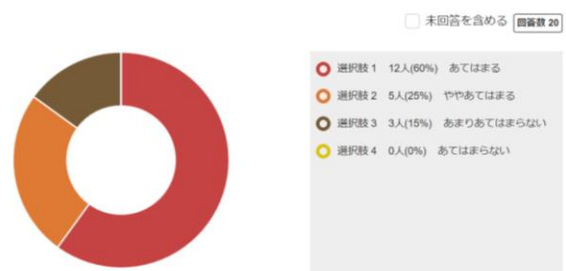
グループ活動の中では生徒同士が教え合ったり、協力する姿が多くみられたので良かったが、最後の反省会など意見交換をする場面では、なかなか発言できていない生徒もいた。授業に参加しているすべての生徒が、自分の意見をアウトプットできるような工夫が必要だと感じた。また今回の授業では感染症対策のため、指示をする時に拡声器を使ったが、声が聞こえにくい、聞き取りにくいという意見をいただいたので、今後の授業では改善できるようにしていきたい。

(9) 授業後の生徒アンケートの結果

設問1【読解力】授業中、自分の意見や考えを表現したり、相手に説明したりすることができましたか。



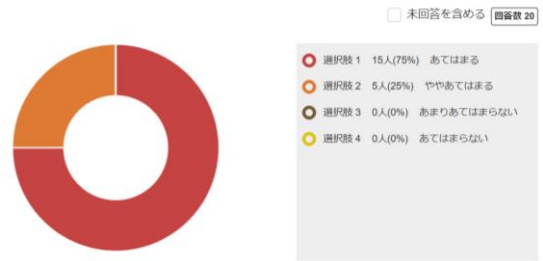
設問2【読解力】生徒同士で意見を共有することで、理解が深まりましたか。



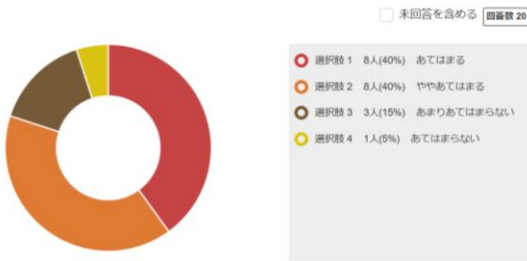
設問3【読解力】与えられた情報を読み、正しく理解することができましたか。



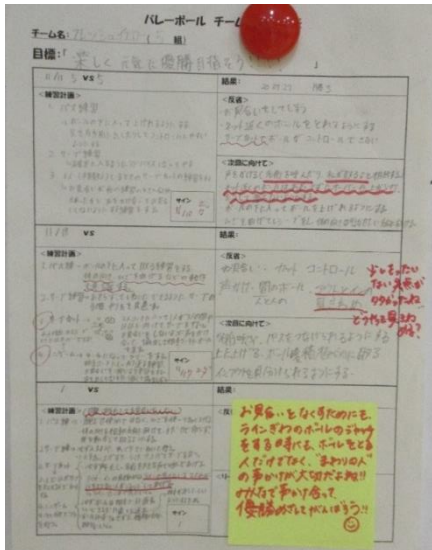
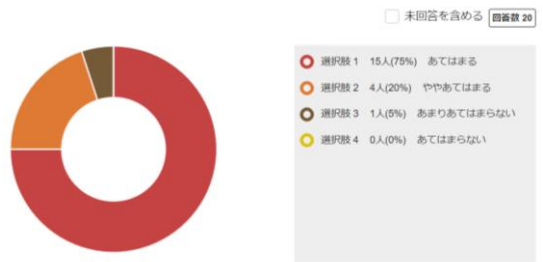
設問4【自ら学ぶ力】授業の目標や本時の問いを理解したうえで、授業を受けることができましたか。



設問5【自ら学ぶ力】授業中、自分の考えや意見を発言しやすい雰囲気はありましたか。

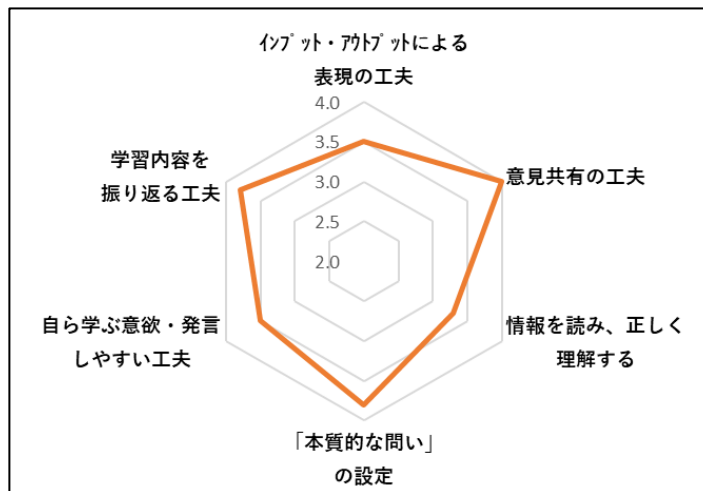


設問6【自ら学ぶ力】授業の最後に、学習した内容や自分の理解状況を振り返ることができましたか。



〔写真〕授業中の風景

〔写真〕授業中の風景



〔資料〕参観者シートの集計結果

V 本校における令和3年度の成果

1 読解力 WG について

読解力 WG では、特にインプット（情報を読み取る）とアウトプット（読み取った情報を基に表現《話す・書く》したり、共有《話し合う・伝え合う》したりする）に重点を置き、研究授業を実施した。また、研究協議会を実施し、多くの教員が研究協議会に参加することで、教科横断的な視点での協議をすることができた。

(1) 研究協議会 1 回目

ア 当該授業

現代文 B（単元名 山月記）

イ 読解力 WG での協議内容

- ①振り返りとして要約活動を行わせることで、正しく本文の内容を理解できているか確認することができる。
- ②黒板に、あらかじめ生徒が行うべき学習活動が明示されていると、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができる。マグネットを活用し、班ごとの進捗状況を教員側が確認することも有効である。
- ③グループ活動を実施する人数が少ない方（約3～4人）が、コミュニケーションがより密となり、グループ活動が活発化していた。
- ④本文の段落ごとに自身の考え方をまとめさせ、Classi 等の学習コンテンツに入力させることで、より簡単に意見共有することができる。
- ⑤プリントの作成およびグループ活動に。考えさせたい問いに至るまでの情報を整理させるための工夫が感じられた。

(2) 研究協議会 2 回目

ア 当該授業

国語総合（古典）（単元名 徒然草）

数学 I （単元名 2 次方程式と 2 次不等式）

イ 読解力 WG での協議内容

- ①ペアワークになった途端に生徒が元気に話し出した。授業中の発言やグループ学習等、意見交換がしやすい雰囲気作りが重要である。
- ②ペアワークをさせる際は、ペアごとの習熟度の差を埋めるため、意図的にペアを組ませたり、1人1人の生徒の意見を可視化したりする工夫も有効である。
- ③生徒への声かけを、正しく丁寧な日本語で行っていくことも、生徒の読解力を向上させるために有効である。
- ④教員側のフォローや、生徒たちの意見を共有する雰囲気が作りをすることは、生徒たちが自らの意見をアウトプットするために重要である。

(3) 研究協議会 3回目

ア 当該授業

英語会話 (単元名 英語会話)

現代文B (単元名 ころ)

イ 読解力WGでの協議内容

- ①意見共有やアウトプットをより活性化させるために、ICT機器や1人1台端末等を活用することは有効である。
- ②グループでポスター作りをする中で、「ころ」の重要な点を考えることができていた。
(現代文B)
- ③英語劇でオチを必ず入れていたのがよかった。「オチ“をつける”ということ意識することで、英語劇をより構成しやすくなった。(英語会話)

2 自ら学ぶ力WGについて

自ら学ぶ力WGでは、生徒が発言しやすい環境づくり、本質的な問いの設定などに重点を置いた。また、生徒が自らの学びを振り返る活動や、生徒に見通しを持たせる工夫を取り入れることで、自らの目標に主体的に取り組むことができるようプログラム開発を行った。

また、研究協議会を実施し、多くの教員が研究協議会に参加することで、教科横断的な視点での協議をすることができた。

(1) 研究協議会 1回目

ア 当該授業

物理基礎 (単元名 力と運動の関係)

イ 自ら学ぶ力WGでの協議内容

- ①サッカーボールや椅子などの実物を用いて実験を演示することは、生徒の興味関心を高めるために有効である。
- ②実際に運動を見せたり、演示実験を生徒と一緒にすることは、生徒に自ら学びたいという意欲を沸かせることに繋がる。
- ③「友達に説明できる文章」を意識して説明を書かせたり、ペアになり自分の言葉で説明し合う活動をさせることで、より学習内容を振り返りやすくなると考えられる。
- ④「本質的な問い」を設定し、それについて授業を展開することで、日常生活の物事を原理を踏まえて説明できるようになっていた。

(2) 研究協議会 2回目

ア 当該授業

現代社会 (単元名 青年期とは)

生物基礎 (単元名 体内環境の維持)

イ 自ら学ぶ力 WG での協議内容

- ①単元を生徒に総合的に理解させるためには、単元全体の問いおよび本時の問いを明確に設定することが重要である。
- ②授業の最初に本時の問いや目標を示すことが、生徒が見通しをもって授業に取り組むことに繋がる。
- ③授業の最後に振り返りをするためには、授業のタイムマネジメントやプリントの構成に工夫する必要がある。
- ④「本質的な問い」を設定するにあたり、授業だけでなく生徒達がこれから学び続けることにつながるよう留意することが大切である。

(3) 研究協議会 3回目

ア 当該授業

体育 (単元名 バレーボール)

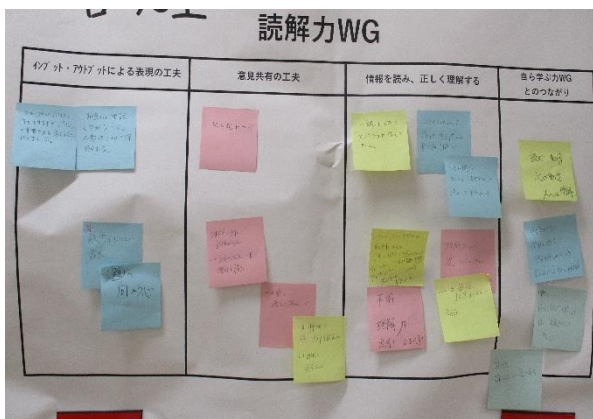
コミュニケーション英語 I (単元名 Eric Carle: How He Creates His Art)

イ 自ら学ぶ力 WG での協議内容

- ①生徒に考えさせる際、クイズ形式を取り入れることは、生徒の興味関心を高めるために有効である。
- ②生徒同士で書いた文章を見せ合うことで、客観的に文章について評価することができ、自分の文章を書くことにも活かすことができていた。(コミュニケーション英語 I)
- ③プリント作成の際、生徒の記述量によって達成度が可視化できるようになっており、生徒が自分の達成度を把握できるようになっていた。(コミュニケーション英語 I)
- ④生徒達に練習メニューを考えさせることは、生徒達が自ら現状における問題を把握し、改善策を考え、主体的に取り組むことに繋がる。(体育)



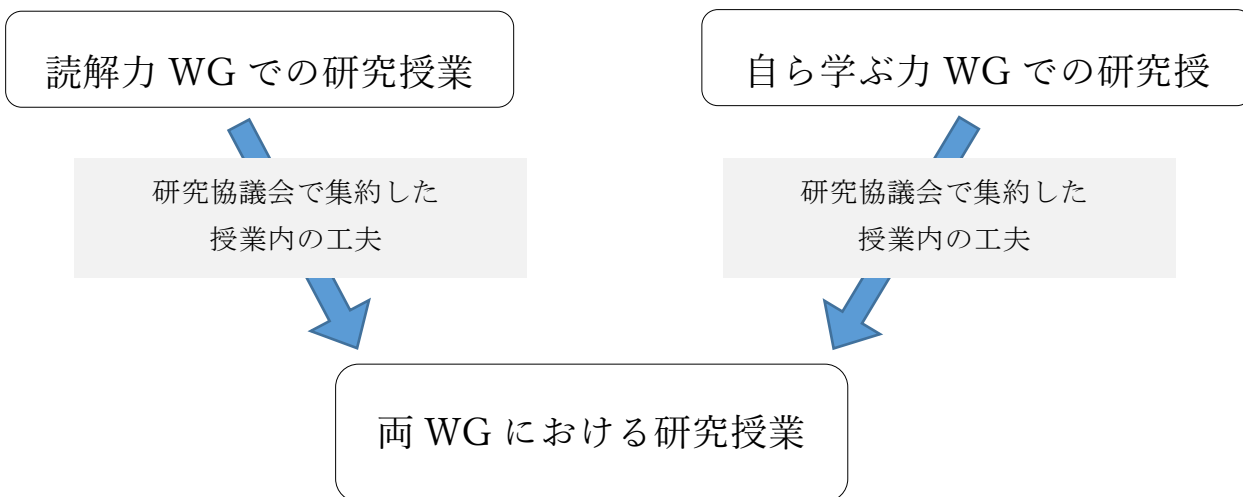
〔写真〕 研究協議会の様子



〔写真〕 研究協議会の様子

VI 本校における「学びの基盤」プロジェクト 今後の課題

2つのWGについて、校内委員を2つのWGに振り分け、研究授業を実施および研究協議会を実施した。仮説に基づき、さまざまな工夫を研究授業内で実施し、その成果と課題を研究協議会で協議を行った。その協議内容を次回の研究授業に活用し、学校全体でのプログラム研究に取り組んだ。今年度の最後の研究協議会では、両WGでのつながりを意識した研究協議会を実施した。来年度は両WGで出てきた様々な工夫を取り入れた研究授業を実施していく。



<令和3年度 「学びの基盤」プロジェクト推進委員会 構成委員>

研究内容	職名	氏名
	校長	佐藤 幸司
	副校長	大森 晴彦
プロジェクトリーダー	教諭	野上 翔子 (理科)
読解力WG (読解力WGリーダー)	教諭	根岸 紗衣 (国語)
読解力WG	主任教諭	武田 陽三 (英語)
読解力WG	主任教諭	楠 瑠奈 (国語)
読解力WG	主任教諭	菅 恵理 (国語)
読解力WG	教諭	西川 真吾 (数学)
読解力WG	教諭	米田 泰歩 (地理歴史)
自ら学ぶ力WG (自ら学ぶ力WGリーダー)	主幹教諭	小林 雅博 (理科)
自ら学ぶ力WG	主任教諭	神山 智 (数学)
自ら学ぶ力WG	主任教諭	田中 善也 (理科)
自ら学ぶ力WG	教諭	塩畑 琴絵 (公民)
自ら学ぶ力WG	教諭	藤枝 千穂 (保健体育)
自ら学ぶ力WG	教諭	内藤 滉太 (英語)

<令和4年度 「学びの基盤」プロジェクト推進委員会 構成委員>

研究内容	職名	氏名
	校長	伊達崎 広
	副校長	大森 晴彦
プロジェクトリーダー	主任教諭	野上 翔子 (理科)
読解力WG (読解力WGリーダー)	教諭	西川 真吾 (数学)
読解力WG	主任教諭	金澤 理奈 (国語)
読解力WG	主任教諭	楠 瑠奈 (国語)
読解力WG	主任教諭	菅 恵理 (国語)
読解力WG	主任教諭	浅野 一実 (英語)
読解力WG	教諭	鍵谷 恭一 (公民)
自ら学ぶ力WG	主任教諭	神山 智 (数学)
自ら学ぶ力WG (自ら学ぶ力WGリーダー)	主幹教諭	小林 雅博 (理科)
自ら学ぶ力WG	主任教諭	田中 善也 (理科)
自ら学ぶ力WG	教諭	塩畑 琴絵 (公民)
自ら学ぶ力WG	教諭	藤枝 千穂 (保健体育)
自ら学ぶ力WG	教諭	内藤 滉太 (英語)

<資料>

- ・令和元年・令和2年度(2019・2020年度)東京都教育委員会「学びの基盤」プロジェクト研究報告書
- ・「学びの基盤」プロジェクト(1年次)教育プログラム～子供たちがAI時代を生き抜くために～
- ・葛飾区役所高齢者支援課地域ケア推進係資料
- ・新型コロナウイルス感染症に関連する偏見や差別意識の解消を図る指導資料(東京都教職員研修センター研修部教育開発課)
- ・「読めた」「わかった」「できた」読み書きアセスメント(平成30年9月20日 教育庁指導部特別支援教育指導課)
- ・「子供一人一人の「分かり方の特性」を生かした指導法に関する研究(平成28年度 東京都教職員研修センター教育課題研究)
- ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(平成23年11月 国立教育政策研究所)
- ・高等学校 学習指導要領(平成21年告示)
- ・高等学校 学習指導要領(平成30年告示)

令和3年度

(2021年度)

東京都教育委員会

「学びの基盤」プロジェクト

研究報告書

東京都立南葛飾高等学校

〔担当〕 東京都立南葛飾高等学校
学びの基盤プロジェクト推進委員会